

535
21

6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 6

始



10.5.8

叢書

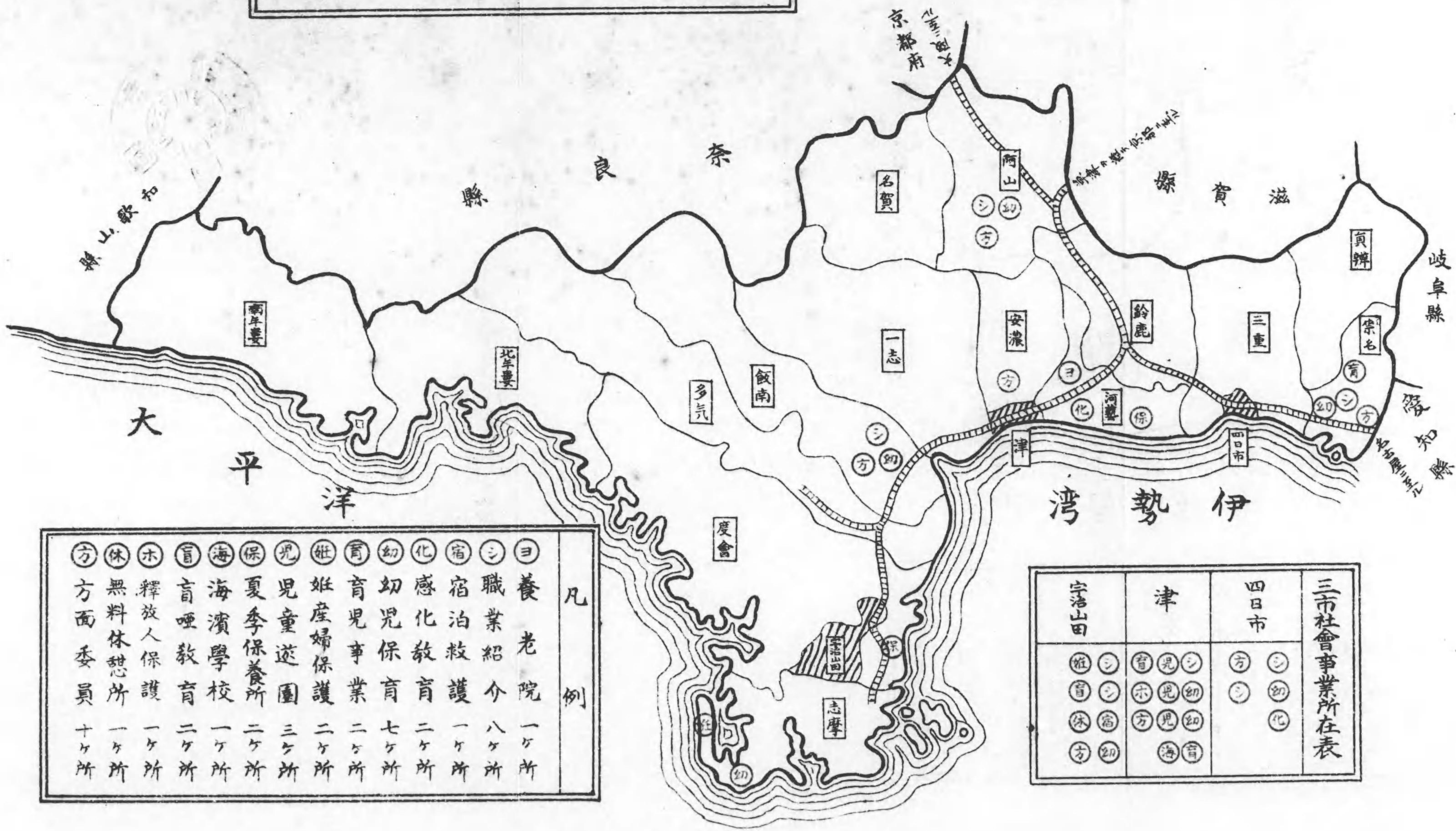
三 重 縣 社 會 專 業 概 要

布圖 大正十四年十一月



- | | | |
|---|-------|-----|
| ① | 職業紹介 | 八ヶ所 |
| ② | 宿泊救護 | 一ヶ所 |
| ③ | 感化教育 | 二ヶ所 |
| ④ | 幼児保育 | 七ヶ所 |
| ⑤ | 育兒事業 | 二ヶ所 |
| ⑥ | 妊産婦保護 | 二ヶ所 |
| ⑦ | 児童遊園 | 三ヶ所 |
| ⑧ | 夏季保養所 | 二ヶ所 |
| ⑨ | 海濱學校 | 一ヶ所 |
| ⑩ | 盲啞教育 | 二ヶ所 |
| ⑪ | 釋放人保護 | 一ヶ所 |
| ⑫ | 無料休憩所 | 一ヶ所 |
| ⑬ | 方面委員 | 十ヶ所 |

月一十年四十大 圖布分業事會社



凡例

| | | | | | | | | | | | | | |
|---------|----------|----------|---------|---------|----------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 方 | 休 | 木 | 盲 | 海 | 保 | 兒 | 妊 | 育 | 幼 | 化 | 宿 | シ | ヨ |
| 方面委員十ヶ所 | 無料休憩所一ヶ所 | 釋放人保護一ヶ所 | 盲啞教育二ヶ所 | 海濱學校一ヶ所 | 夏季保養所二ヶ所 | 兒童遊園三ヶ所 | 妊産婦保護二ヶ所 | 育兒事業二ヶ所 | 幼兒保育七ヶ所 | 感化教育二ヶ所 | 宿泊救護一ヶ所 | 職業紹介八ヶ所 | 養老院一ヶ所 |

三市社會事業所在表

| 宇治山田 | 津 | 四日市 |
|------------------|------------------|-------------|
| 妊 盲 休 方 | 育 示 方 海 | 方 シ 化 |

535-21



序言

一、本編ハ三重縣内ニ於ケル社會的施設ノ概要

ヲ簡單ニ摘録セルモノナリ

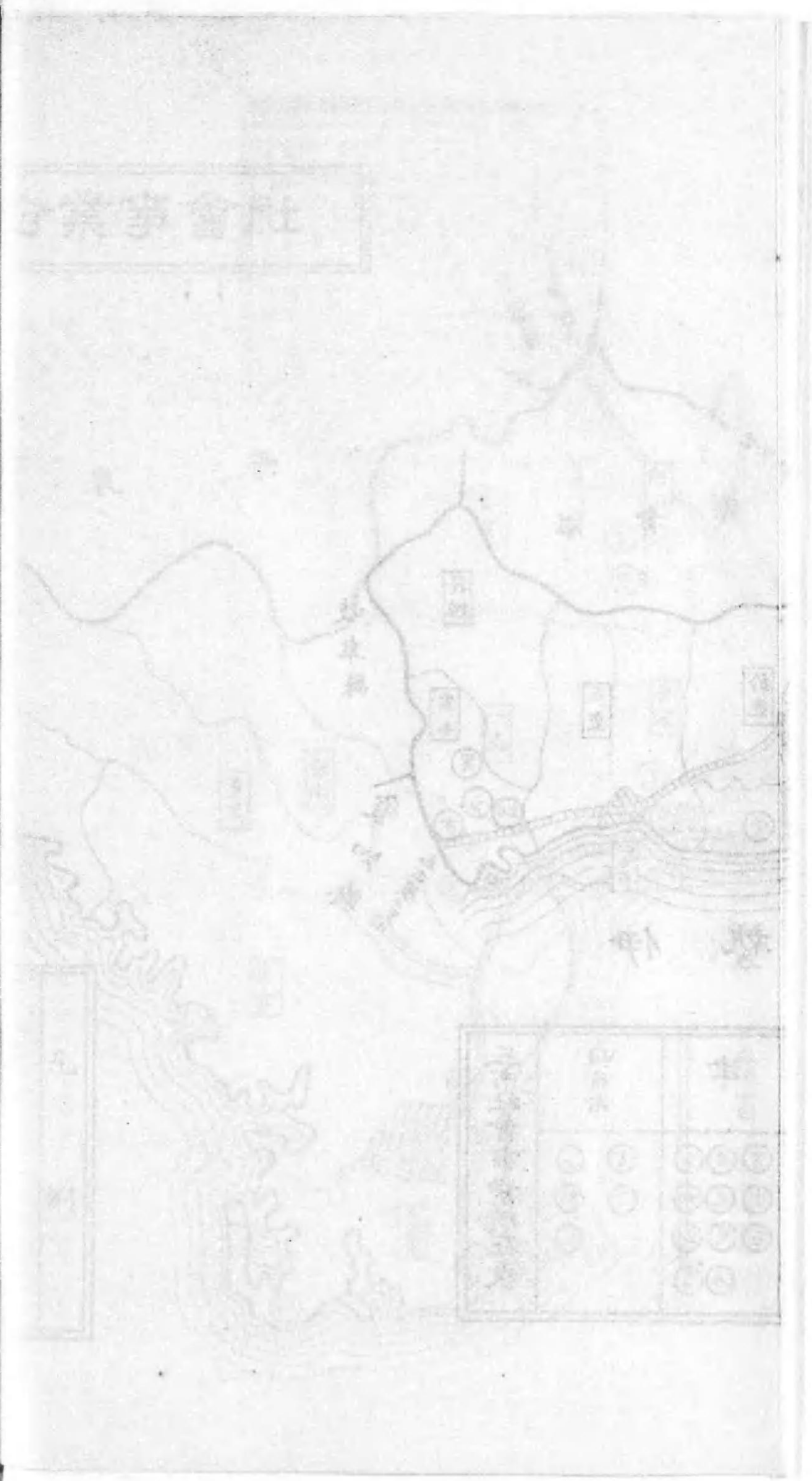
二、本編ノ摘録ニ漏レタルモノハ後日ヲ俟テ補

フ所アルヘシ

大正十四年十一月

三重縣社會課

大正
14.12.7
内交





三重縣社會事業概要



三重縣社會事業概要

目次

第一、三重縣社會課及關係規程

- (イ) 社會課分掌事務.....
- (ロ) 社會事業補助規程.....
- (ハ) 感化救濟事業取締規程.....
- (ニ) 公益法人取締規程.....
- (附) 社會事業ニ關スル公益法人.....

一一九四三一

第二、救濟基金及經費

- (イ) 慈善救濟基金.....
- (ロ) 罹災救助基金.....
- (ハ) 大禮 恩賜賑恤金.....
- (ニ) 軍人援護資金.....
- (ホ) 救 育 費.....

一一一七

第三、調查研究並聯絡統一機關

三

- (イ) 住宅組合ニ關スル事項.....一〇五
- (ロ) 公 營 住 宅.....一四三
- 1 宇治山田市市營住宅.....一四三
- 2 四日市市營住宅.....一四四
- 3 富田町營住宅.....一四五
- 4 白子町營住宅.....一四六
- 5 松江村營住宅.....一四七
- 6 松阪町營住宅.....一四八

十一、公設市場並簡易食堂.....

第五、兒童保護事業

- 一、感 化 教 育.....一四九
- (イ) 三重縣立國兒學園.....一四九
- (ロ) 三重感 化 院.....一五四
- 二、保 育 並 育 兒.....一五七
- (イ) 津 市 保 育 園.....一五七
- (ロ) 三重保 育 園.....一五八
- (ハ) 四日市佛教保育院.....一六〇
- (ニ) 白鳳愛 兒 園.....一六一

- (ホ) 宇治山田市佛教園保育園.....一六四
- (ヘ) 松 阪 愛 護 園.....一六六
- (ト) 桑 名 愛 兒 園.....一六八
- (チ) 三重濟美學 院.....一七〇
- (リ) 九 華 育 兒 院.....一七二
- (ヌ) 波切村立保育場.....一七五
- 三、妊 産 婦 保 護.....一七六
- (イ) 宇治山田市妊産婦保護.....一七六
- (ロ) 越賀村産婦保養所.....一七七
- (ハ) 村 營 産 婆.....一七八
- 四、幼 兒 保 護.....一七九
- (イ) 津市兒童遊園.....一七九
- 五、病 兒 及 虛 弱 兒 保 護.....一八〇
- (イ) 日本赤十字社三重支部夏季兒童保養所.....一八〇
- (ロ) 津市教育會夏季海濱學校.....一八二
- 六、盲 聾 啞 兒 教 育.....一八四
- (イ) 縣立三重盲啞學校.....一八四
- (ロ) 神 都 訓 育 院.....一八八

第六、教化事業

- 一、矯風並生活改善.....一九一
- 二、勤儉獎勵(民力涵養、消費節約、國民精神作興).....一九一
 - (イ) 三重縣新民會.....二〇七
- 三、地方改善事業.....二二二
- 四、釋放人保護.....二二〇
 - (イ) 三重縣保護會.....二二〇
- 五、雜.....二二三
 - (イ) 如雪園.....二二三

目次終

三重縣社會事業概要

第一 三重縣社會課及關係規程

本縣ニテハ從來地方課ニ於テ慈善救濟ニ關スル事務ヲ取扱ヒ來リシカ時勢ノ推移ト民衆ノ自覺トハ一層社會的施設事業ノ發達ヲ促シ殊ニ戰後ニ於ケル社會ノ趨勢ハ別ニ一課ヲ設ケテ各種社會事業ノ進捗ヲ圖リ聯絡統一ヲ期スルノ必要ヲ認メタルヲ以テ大正九年六月新ニ社會課ヲ設置シ爾來斯業ノ發達獎勵ニ努メテ今日ニ及ヘリ其ノ分掌事務左ノ如シ

●(イ) 社會課分掌事務

- 一、公私設社會事業團體ノ指導監督ニ關スル事項
- 二、公益法人ノ指導監督ニ關スル事項
- 三、恩賜賑恤、恤救ニ關スル事項
- 四、行旅病人行旅死亡人及精神病者ニ關スル事項
- 五、軍事救護ニ關スル事項



- 六、罹災救助ニ關スル事項
 - 七、勸儉獎勵ニ關スル事項
 - 八、矯風事業ニ關スル事項
 - 九、感化教育ニ關スル事項
 - 十、釋放人保護ニ關スル事項
 - 十一、地方改善ニ關スル事項
 - 十二、生活改善ニ關スル事項
 - 十三、職業紹介ニ關スル事項
 - 十四、住宅改良ニ關スル事項
 - 十五、方面委員ニ關スル事項
 - 十六、賜恩財團濟生會ニ關スル事項
 - 十七、其ノ他社會的施設ニ關スル事項
- 而シテ本縣ニ於テハ今後必要ナル未設社會的施設ノ設置獎勵ニ努ムルト共ニ既設事業ノ指導發展ニ努メ左記ノ補助規程ヲ設ケテ毎年約貳萬圓内外ノ範圍ニ於テ補助金ヲ交付シツ、アリ又曩ニ左記感化救濟事業取締規程並公益法人取締規程ヲ設ケテ之ヲ取締リ各種ノ事業逐年發達ノ道程ニ在リ

●(口) 社會事業補助規程

三重縣令第七十號

社會事業費補助規程左ノ通り定ム

大正九年十二月三日

三重縣知事 山 脇 春 樹

- 第一條 社會事業ノ改善ニ資スルノ目的ヲ以テ施行スル事業ニ對シ縣ハ毎年度豫算ノ範圍ニ於テ補助金ヲ交付ス
- 第二條 補助ヲ受ケムトスルモノハ施設ヲ要スル事出ヲ詳記シタル願書ニ左ノ書類ヲ添付シ毎年二月末日迄ニ知事ニ差出シ豫メ補助ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一、事業經營ノ狀況
 - 二、施設ノ事業カ工事ノ施行ニ屬スルモノナルトキハ設計又ハ仕様書圖面及工事ノ着手並其ノ竣工豫定期限
 - 三、收支豫算書及前年度決算書但シ豫算ノ設ケナキモノハ收支見積計算書
- 第三條 補助ヲ受ケタル事業ハ其ノ施設ヲ變史シ又ハ之ヲ讓渡シ若クハ債務ノ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ豫メ知事ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 知事ハ隨時吏員ヲシテ補助ノ認可ヲ爲シタルモノニ就キ實地調査ヲ爲サシメ

其他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル補助金ノ全部又ハ

一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一、詐欺ノ所爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルモノ

二、第三條ノ規定ニ違反シタルモノ

三、第四條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ同條ニ依リ發シタル命令ニ従ハサルモノ

第六條 本規程ニ依リ知事ニ差出ス願書又ハ届書ハ所轄町村役場及郡市役所ヲ經由スヘシ

郡市長ハ第二條ノ補助願書ヲ受理シタルトキハ事業ノ適否及效果ヲ調査シ意見ヲ附シテ之ヲ進達スヘシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年四月三重縣令第三十八號部落改善費補助規程ハ之ヲ廢止ス

●(ハ) 感化救濟事業取締規程

三重縣令第四十號

感化救濟事業取締規程左ノ通り定ム

大正七年九月十日

三重縣知事 長野 幹

第一條 本規程ニ於テ救濟所ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス私人ニ於テ一定ノ場所ヲ設ケ孤兒、遺兒、棄兒、幼兒、子守、不良少年、盲啞者、浮浪者、無職業者若ハ免囚者等ニ對シ育兒、養育、感化、職業ノ授與、紹介其ノ他慈惠ノ趣意ヲ以テ救濟ヲ爲スヲ目的トスルモノヲ謂フ

第二條 救濟所ヲ設置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ履歷書、救濟所用地及建物ノ圖面ヲ添ヘ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

一、目的

二、名稱

三、位置

四、開始豫定ノ年月日

五、被救濟者ノ人員ヲ定メタルモノハ其ノ定員

六、存立時期又ハ閉鎖ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

七、事業執行ノ方法

八、管理及維持ノ方法

九、事務員ノ資格及任免ニ關スル事項

十、數人共同シテ設立スルモノハ其ノ共同員ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

第三條 救濟所ニ於テ第二條第二號及第四號ノ事項ヲ變更シ又ハ救濟所ヲ廢止シタルトキハ其ノ都度之ヲ當廳ニ届出ツヘシ

第四條 救濟所ニ於テ第二條第一號第三號及第五號乃至第十號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 救濟所ニ於テ設立者ヲ増減シ若ハ之ヲ變更セムトスルトキ又ハ設立者以外ニ代表者ヲ置キ若ハ之ヲ交迭セムトスルトキハ新設立者又ハ新代表者ノ履歷書ヲ添付シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 死亡其ノ他ノ事由ニ依リ設立者欠缺シタル場合ニ於テハ其ノ事由ノ發生後十日以内ニ其ノ相續人ヨリ事業ノ承繼者ヲ定メ其ノ者ノ履歷書ヲ添へ當廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ數人共同ノ事業ニ在リテハ他ノ設立者若ハ代表者ヨリ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 救濟所ニ於テハ被救濟者ノ名簿ヲ備へ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一、氏名

二、生年月日

三、本籍地及族稱

四、戶主トノ續柄

五、收容ノ年月日理由(被救濟者ノ種別トモ)其ノ他本人ノ身上ニ關スル事項

六、未成年者ニ關シテハ就學種痘及親權者若ハ後見人ニ關スル事項

七、退所、死亡、逃亡等ノ年月日及其ノ理由

八、前各號ノ外必要ト認ムル事項

前項ノ名簿ハ被救濟者ノ種別毎ニ別冊ト爲シ又ハ一冊トシテ口座ヲ設ケ用紙一枚ヲ一人ニ専用スヘシ

第八條 被救濟者ヲシテ作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ一定ノ帳簿ヲ備へ各被救濟者

ニ就キ勞役時間及收得金額ヲ明細ニ登錄スヘシ

第九條 救濟所ニ於テハ每事業年度歲入歳出豫算及決算ヲ調製シ豫算ハ決定後十日以内ニ決算ハ年度終了後一月以内ニ當廳ニ届出ツヘシ豫算ヲ追加更正シタルトキ亦同シ

決算ヲ届出ツルトキハ併テ左ノ事項ヲ届出ツヘシ

一、事業ノ狀況

二、前年度中ニ於ケル處務ノ要件

三、年度末現在財産目録

四、賛助員、協賛員、其ノ他名稱ノ如何ニ拘ラス繼續シテ金員ヲ醸出スル者ノ年度末現在數

第十條 救濟所ニ於テハ出納帳簿ヲ備ヘ金錢及物品ノ出納ノ明細ニ登録スヘシ

第十一條 知事ハ何時ニテモ官吏、吏員ヲシテ救濟所ノ事業及會計ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第十二條 救濟所ニ於テ其ノ目的以外ノ行爲若ハ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ設立認可ノ條件ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲アリト認ムルトキハ其ノ事業ノ改善若ハ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

第十三條 救濟所設置ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其ノ目的、名稱、位置、設立者若ハ代表者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ、救濟所ノ事業ノ停止ヲ命シ若ハ認可ヲ取消シ又ハ解停ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス告示事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十四條 本規程ニ依リ提出スヘキ書類ハ總テ設立者又ハ代表者若ハ相續人等ヨリ之ヲ提出スヘシ前項ノ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ市役所又ハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

第十五條 救濟所ニシテ他ノ法令ニ依リ設置スルモノ及自己ノ業務ニ從事セシムル者ノ

爲ニスルモノニハ本規程ヲ適用セス

附 則

第十六條 本規程ハ大正七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 本規程施行ノ際現ニ救濟所ヲ設置セルモノハ本規程施行ノ日ヨリ三十日以内ニ設立ノ年月日設立者及代表者ノ履歷書並第二條ノ事項ヲ具シ當廳ニ届出ツヘシ

第十八條 一定ノ救濟所ヲ設ケタルモノト雖寄附金又ハ會員其ノ他公衆ノ捐資ニ依リ第一條ニ掲タル事業ヲ經營スルモノニ對シテハ本規程ヲ適用ス

●(二) 公益法人取締規程

三重縣令第四十一號

公益法人取締規程左ノ通り定ム

大正七年九月十日

三重縣知事 長野 幹

第一條 本規程ニ於テ公益法人ト稱スルハ民法第三十四條及民法施行法第十九條ニ依ルモノヲ謂フ

第二條 公益法人ハ其ノ設立登記ヲ了シタル日ヨリ十日以内ニ左ノ事項ヲ當廳ニ届出ツヘシ第二號及第三號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

- 一、登記ヲ了シタル日
- 二、登記ヲ爲シタル事項
- 三、一定ノ場所ニ於テ事業ヲ施行スルモノニ在リテハ其ノ位置
- 四、設立以前既ニ爲シタル事業アルトキハ其ノ種類及功程
- 五、財産目録
- 六、社団法人ニ在リテハ社員ノ員數
孤兒、遺兒其ノ他父又ハ母ニ於テ親權ヲ行ヒ難キ情況ニアル未成年者ヲ教育スル法人ニシテ前項ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ理事ノ履歷書ヲ添付スヘシ新ニ理事ヲ置キ若ハ之ヲ變更シタル場合亦同シ
- 第三條 本縣外ニ於テ設立ノ許可ヲ受ケタル公益法人ニシテ新ニ本縣内ニ事務所ヲ設置シ若ハ事業ヲ開始シタルモノハ第二條第一項ノ事項ニ併テ定疑若ハ寄附行爲及主タル事務所ノ所在地ヲ届出ツヘシ
- 第四條 公益法人ハ左ノ事項ヲ其ノ都度當廳ニ届出ツヘシ
 - 一、定疑又ハ寄附行爲以外ノ諸規程
 - 二、總會ノ議決事件
 - 三、財産目録

- 四、理事以外ニ役員ヲ設ケタルトキハ其ノ職名及住所氏名並其ノ異動
- 第五條 一定ノ場所ヲ設ケ老幼疾病者不具癡疾者窮民不良少年若ハ免囚等ヲ救済スルヲ以テ目的トスル法人ニ就テハ感化救済事業取締規程第七條及第八條ノ規程ヲ適用ス
- 第六條 公益法人ハ每事業年度歳入歳出豫算及決算ノ調製シ豫算ハ決定後十日以内ニ決算ハ年度終了後一月以内ニ當廳ニ届出ツヘス豫算ヲ追加更止シタルトキ亦同シ
 決算ヲ届出ツルトキハ併テ左ノ事項ヲ届出ツヘシ
 - 一、法人ノ目的タル事業ノ狀況
 - 二、前年度中ニ於ケル處務ノ要件
 - 三、社団法人ニ在リテハ年度末現在社員ノ員數
- 第七條 本令ニ依ル届出事項中他ノ法令又ハ指令ニ依リ別ニ主務官廳ノ許可ヲ受クヘキモノ及報告スヘキ事項ハ更ニ届出ツルヲ要セス
- 第八條 公益法人ノ設立其ノ他ニ關シ主務大臣又ハ當廳ニ提出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ市役所又ハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ但シ主務大臣ノ許可ヲ申請スル場合ハ總テ申請書三通ヲ提出スルコトヲ要ス

附 則

第九條 本令ハ大正七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス
 第十條 本令施行ノ際現ニ存スル公益法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内第二條第一項第四條第一號及第四號ノ事項ヲ當應ニ届出ツヘシ
 社會事業ニ關スル公益法人

| 法人名稱 | 主ナル事務所ノ所在地 | 許可設立年月日 | 目的ノ大要 |
|---------------|------------|--------------|-------------------------------------|
| 丹生川報徳社 | 員辨郡丹生川村 | 明治三十五年六月二十八日 | 宮尊二徳ノ遺教ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ徳義ヲ奨励シ報徳ノ事業ヲ樹ツ |
| 報徳共同社 | 一志郡豊田村 | 同四十四年五月二十日 | 勤儉推讓ノ徳義ヲ奨励ス |
| 報徳積善社 | 阿山郡島ヶ原村 | 大正十年九月十六日 | 教育勸諭ノ御趣旨ヲ遵奉シ民力涵養ト民風ノ改善ニ努メ併セテ家道振興ヲ圖ル |
| 豊田報徳社 | 一志郡豊田村 | 明治三十三年六月一日 | 勤儉推讓ノ徳義ヲ奨励ス |
| 千司久連報徳社員辨郡十社村 | | 同三十五年七月十一日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ徳義ヲ奨励シ報徳事業ヲ樹ツ |

| | | | |
|--------|--------|--------------|------------------------|
| 大泉報徳社 | 同郡大泉村 | 同三十六年十月九日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ徳義ヲ奨励ス |
| 神津佐報徳社 | 度會郡神原村 | 同四十三年一月二十五日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ報徳ノ美風ヲ養フ |
| 田中公益財團 | 阿山郡上野町 | 大正九年二月二十日 | 公益事業ヲ爲ス |
| 夏艸報徳社 | 度會郡神原村 | 明治四十三年一月二十六日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ報徳ノ美風ヲ實踐ス |
| 九華育兒院 | 桑名郡桑名町 | 大正元年十月十六日 | 貧困撫育ノ兒童ヲ教育シ獨立自活ノ途ヲ得セシム |
| 栗木廣報徳社 | 度會郡神原村 | 明治四十三年六月八日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ報徳ノ美風ヲ養フ |
| 山原報徳社 | 同郡同村 | 同年二月五日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ報徳ノ美風ヲ實踐ス |
| 松阪徳義社 | 飯南郡松阪町 | 同三年六月十三日 | 學術慈善事業 |

| | | |
|----------------|-------------|--|
| 深井澤報德社 鈴鹿郡深井澤村 | 同四十二年二月二十六日 | 遠江國報德社ノ師傅ニ依リ勤儉推讓ノ德義ヲ獎勵シ報德ノ事業ヲ樹ツ |
| 三重濟美學院 津市丸之内殿町 | 大正六年二月二十二日 | 佛教ニ基キ慈善ヲ主トシテ普ク貧困ノ兒童ヲ教育ス |
| 三重保育院 同市津興米之内 | 同七年三月十三日 | 佛教ニ基キ晝間労働者ノ幼兒ヲ養育保護ス |
| 三重縣保護會同 市上辯財町 | 同九年五月二十四日 | 釋放人及之ニ準スヘキ者ノ保護ヲナス |
| 三重感化院 四日市市濱田 | 同六年五月一日 | 佛教ニ基キ慈善ヲ旨トシ普ク貧困撫告ノ不良少年ヲ教育感化シ獨立自活ノ途ヲ得セシメ以テ社會ノ福祉ヲ増進ス |
| 十社報德社員辨郡十社村 | 明治三十六年十月二日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ德義ヲ獎勵シ報德事業ヲ樹ツ |
| 東大淀報德社 度會郡北濱村 | 大正二年一月十日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ報德ノ美風ヲ養フ |
| 積善報德社員辨郡丹生川村 | 同七年五月二十四日 | 二宮尊徳ノ遺教ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ德義ヲ獎勵シ報德ノ事業ヲ樹ツ |

第二 救濟資金及經費

●イ) 慈惠救濟基金

明治三十年一月ノ御大喪ニ際シ地方慈善救濟ノ御思召ヲ以テ金八千參百圓ヲ下賜セラレタルヲ以テ之ヲ基金トシ縣ハ同三十九年迄毎年金四千圓ヲ支出シテ増殖ヲ圖リ其ノ後大正元年ノ御大喪ニ際シ更ニ金九千壹百圓御下賜ノ恩命ニ浴シタルヲ以テ之ヲ基金ニ加ヘ之ニ依リテ生スル利子ノ中金壹萬五千圓内外ヲ一般ノ社會事業補助並獎勵費ニ支出シツ、アリ大正十四年十月末ノ該基金現在額左ノ如シ

一金四拾貳萬八千八拾圓

●ロ) 罹災救助基金

明治三十二年三月法律第七十七號ヲ以テ罹災救助基金法ノ實施セラレ、ニ及ヒ從來ノ備荒儲蓄法ニ依リテ積立タル儲蓄金ヲ受入レ之ヲ特別會計トナス、而シテ市町村罹災救助資金補助方法ヲ設ケ毎年參萬圓ノ範圍ニ於テ蓄積額ト同額ノ補助ヲ與ヘ該基金ノ蓄積

ヲ獎勵シツ、アリ（別項罹災救助欄參照）大正十四年十月末ノ該基金現在額左ノ如シ
一金參百五拾萬壹千六百六拾圓

●(ハ) 大禮 記念 恩賜 賑恤 金

大正四年十一月御即位大典ニ際シ特ニ賑恤ノ思召ヲ以テ下賜セラレタル金壹萬五千貳百圓ヲ特別會計ニ依リ管理蓄積シ此ノ基金ヨリ生スル利子並前記慈惠救濟基金ヨリ毎年受入ル、金額參千圓内外ヲ以テ賑恤ノ資ニ充テ明治七年十二月太政官達恤救規則ニ該當セサル窮民ヲ救助ス（別項窮民救助欄參照）大正十四年十月末ノ該基金現在額左ノ如シ
一金壹萬參千圓

●(ニ) 軍人 援護 資金

明治三十九年八月本縣ニ配付セラレタル帝國軍人援護會殘餘金四萬參千圓ヲ特別會計トシ該基金ヨリ生スル利子ノ内一ヶ年約參千圓ヲ愛國婦人會三重支部ニ交付シ大正六年十月公布ノ軍事救護法ニ該當セサルモノ若ハ同法ニ依リ救護ヲ受クルモ尙生計ヲ支持シ能ハサルモノ、救護ヲ同會ニ委託ス（別項軍事救護欄別表參照）大正十四年十月末ノ該資金現在額左ノ如シ

一金八萬四千四圓貳拾九錢八厘

●(ホ) 教 育 費

明治三十二年三月法律第九十三號ヲ以テ行旅病人及行旅死亡人取扱法公布以來一般會計ニ依リ毎年豫算ヲ定メ取扱フ（別項行旅病人行旅死亡人取扱參照）而シテ大正十四年度該豫算額左ノ如シ
一金壹千五百六圓也

第三 調查研究並聯絡統一機關

●(イ) 社會事業調查會

大正九年六月社會課設置ト共ニ社會事業ノ調查審議機關トシテ社會事業調查會ヲ設テ各種社會事業ノ聯絡ヲ圖リ兼テ斯業ニ關スル調查研究ヲ爲シツ、アリ規程左ノ如シ
三重縣告示第二百三十九號
社會事業調查會規程左ノ通り定ム

大正九年六月八日

三重縣知事 山 脇 春 樹

第一條 社會事業調查會ハ知事ノ監督ニ屬シ社會事業ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條 調査會ハ會長一名副會長一名及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條 會長ハ内務部長副會長ハ警察部長委員ハ知事官房主事内務部各課長及警察部各課長ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ外知事ハ必要ニ依リ官吏々員及學識經驗アル者ノ中ヨリ委員ヲ命シ又ハ囑託ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理シ會長事故アルトキハ副會長之ヲ代理ス

第五條 調査會ニ幹事ヲ置キ委員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 調査會ニ書記ヲ置キ官吏々員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第七條 調査會ハ毎月二回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時開會スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●(口) 方 面 委 員

縣下ノ市街及同接續地ニハ相當多數ノ細民住居スルヲ以テ方面委員制度ヲ布キ之カ調査並救濟ヲ爲サムトシ大正十二年六月二十二日左記方面委員設置規程ヲ發布シ同時ニ執務心得、取扱事項概目、設置規程實施内規ヲ定メ左記方面ニ七十八名ノ委員ヲ囑託セシカ其ノ後宇治山田市並松阪町兩方面ニ於テ擔當地域ノ變更其ノ他ノ關係ヨリ増員セシタメ目下八十八名ヲ算スルニ至レリ而シテ愛知、岐阜ノ二縣並京都府ノ委員制度ヲ視察セリ尙本年度總會ハ大正十五年二月開催ノ見込ナリ

| 設置地域名 | 設置年月日 | 委員數 |
|--------|--------------|-----|
| 津 市 | 大正十二年十二月二十七日 | 一〇名 |
| 宇治山田市 | 同 | 一九名 |
| 四日市 | 同 | 六名 |
| 桑名郡桑名町 | 同 | 一二名 |
| 同 大山田村 | 同 | 三名 |
| 同 益生村 | 同 | 二名 |
| 安濃郡新町 | 同 | 二名 |
| 阿山郡上野町 | 同 | 一二名 |
| 飯南郡松阪町 | 同 | 一八名 |
| | 二月十二日 | |

阿山郡城南村

大正十三年三月十二日

四名

計

八八名

右ニ要スル經費ハ特別會計タル慈惠救濟費ヨリ支出シ本年度豫算貳千圓ヲ計上セリ然レトモ各委員ニ對シテハ何等手當ヲ支給セス全部無報酬ニテ精神的ニ活動ヲ仰キ設置以來日向淺キニ不拘相當ノ成績ヲ收メツ、アルノ狀況ナリ

三重縣告示第二百五十八號

三重縣方面委員設置規程五ノ通り定ム

大正十二年六月二十二日

三重縣知事 柴田善三郎

第一條 社會狀態及生活狀態ヲ調査シ其ノ改善向上ヲ圖ル爲テ必要ト認ムル地方ニ方面委員ヲ設置ス

第二條 方面委員ハ篤志者、市町村吏員、警察官吏、學校關係者、神職、宗教家及社會事業關係者等ノ中ヨリ郡市長ノ推薦ニ依リ知事之ヲ囑託ス

方面委員ハ名譽職トシ其ノ任期ヲ定メス

第三條 方面委員ヲ設置スヘキ地方及其ノ員數ハ別ニ之ヲ定ム

一地方ニ二名以上ノ方面委員ヲ置キタル場合ニ於テハ其ノ一名ヲシテ事務ノ連絡ヲ圖ラシム

第四條 方面委員ノ職務左ノ如シ

一、一般社會生活ノ實狀ヲ調査シ之カ改善向上ノ方法ヲ攻究スルコト

二、特ニ必要アルモノニ付テハ戶別的ニ其ノ生活狀態ヲ調査シ之ニ對シ匡濟方法ヲ講スルコト

三、各種社會事業機關トノ連絡ヲ保チ之カ利用ノ途ヲ講シ其ノ目的ノ達成ニ助力スルコト

四、社會事業ノ施設上必要ナル事項ニ關シ意見ヲ知事ニ提出スルコト

五、其ノ他特ニ委囑セラレタル事項ノ調査實行ニ當ルコト

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

方面委員執務心得

一、方面委員ハ方面委員設置規程第四條ノ事項ヲ調査又ハ實行スル爲隨時分擔地域内ヲ巡視シ又ハ家庭ノ訪問ヲ爲スコト

二、方面委員ハ常ニ關係官公衙、各宗教機關、各種公共團體、社會事業諸機關ト密接ナル聯絡ヲ保チ一般社會狀態及生活狀態ノ真相ヲ知悉スルニ努ムルコト

三、方面委員ハ職務ノ性質ニ鑑ミ其ノ舉措ニ注意スルハ勿論家庭訪問ニ際シテハ懇切叮

嚙ヲ旨トシ苟モ不快ノ念ヲ抱カシメサル様留意スルコト

四、方面委員ノ取扱事務ハ多ク他人ノ身上ニ關スル事項ナルヲ以テ秘密ヲ嚴守スルコト

五、方面委員ハ左ノ簿冊ヲ備ヘ其ノ時々記入整理ヲ爲スコト

一、調査臺帳(カード式)

(第一號樣式)

一、事務日誌

一、文書綴

調査票ハ一世帯ニ付三通ヲ作製シ其ノ一通ハ市役所町村役場ニ提出シ一通ハ郡役所ヲ經テ縣ニ送付シ一通ハ自ラ之ヲ保管スルコト

記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ之カ加除訂正ヲ爲シ町村役場及郡市役所ヲ經テ縣ニ通報スルコト

六、方面委員ハ其ノ取扱ヒタル件數ヲ種類別トシ毎年六月、十二月ノ末日ヲ期シ翌月十日迄ニ町村役場及郡市役所ヲ經テ知事ニ報告スルコト (第二號樣式)

七、方面委員ニ對シ生活育兒其ノ他諸般ノ事項ニ付助力ヲ申出タル者アル場合ニ於テハ懇切ニ事情ヲ聽取シ機宜ノ方法ヲ講シ相當様關ニ紹介斡旋スルハ勿論必要アルトキハ進テ相當ノ指導助力ヲ爲スコト

八、方面委員退職ノ場合ハ直チニ其ノ取扱事務並第五項ニ規定スル保管文書ヲ後任者ニ

引繼クコト

方面委員取扱事項概目

一、生活狀態ノ調査

分擔地域内ノ左記ニ屬スルモノニ付テハ其ノ生活狀態ヲ調査シ調査票ニ登録スルコト

ト

イ、第一種ニ屬スルモノ
獨身ニシテ自活シ得サル者、獨身ニアラサルモ扶養者ナク自活ノ途ヲ得サル者及疾病其ノ他ノ事由ニ依リ自活困難ナル者

ロ、第二種ニ屬スルモノ
辛ウシテ自活シ得ルモ一朝事故ニ遭遇スルトキハ忽チ自活困難ニ陥ル虞アルモノ

二、生活ノ保護

イ、生計困難ナル者ニ對シテハ其ノ實狀ヲ調査シ之ヲ除去スルノ方法ヲ攻究スルコト

ロ、軍人家族遺族及廢兵ニシテ生計困窮ナル者アル場合ハ軍事救護法ニ依ル救護及軍人援護資金等ノ救助ヲ受ケシムルコト

ハ、老衰、幼弱、不具、癡疾等ノ爲自活シ能ハサル者アルトキハ其ノ扶養ニ付親戚故舊ニ謀リ若ハ隣保市町村ヨリノ救助方法ヲ考究シ尙足ラサルトキハ恤救規則大禮恩賜賑恤基金規程ニ依リ救濟其ノ他適當ナル方法ヲ以テ生活ノ途ヲ講スルコト

ニ、懶惰ノ風ニ染ミ遊逸徒食シテ勞働ヲ厭ヒ誠實業務ニ從事スルヲ欲セス爲ニ貧困トナリ又ハ貧困トナル虞アル者ニ對シテハ懇切ニ説諭ヲ加ヘ之カ善導ニ努力スルコト

ホ、失業者ニ付テハ其ノ状態及思想ニ留意シ慰安督勵ヲ加ヘテ其ノ惡化ヲ防キ職業紹介機關等ト謀リ其ノ他適當ノ方法ニ依リ就職口ヲ得セシムルコト

ヘ、釋放人ニ付テハ釋放後親族近隣等ノ之ニ對スル仕向及本人ノ思想行動ニ留意シ常ニ刑務所保護機關職業紹介機關等ト連絡シ改過遷善ノ實ヲ擧ケシムルコト

ト、常ニ生計上餘裕ナキ者ニ對シテハ副業ノ斡旋獎勵等ニ依リ收入増加ノ途ヲ指示シ貯蓄其ノ他ノ方法ニ依リ恒産ヲ有セシムル様誘導スルコト

チ、高利ノ借財ニ苦ム者ニ對シテハ低利ニ借替方ヲ斡旋スルコト

リ、救濟ヲ爲ス要アル場合ハ可成金品ノ施與ヲ避ケ己ムヲ得ス之ヲ爲ス場合ニ於テハ濫救ニ陥ラサル様注意スルコト

ヌ、簡易生命保險規約貯金産業組合等ニ加入セシメ又ハ郵便貯金銀行貯金ヲ爲ス様勸告斡旋ヲ爲スコト

三、兒童並少女ノ保護

イ、妊婦產婦アルトキハ産前産後ニ於テ醫師又ハ産婆ノ診療ヲ受ケシムルハ勿論必要ト認メタルトキハ相當注意ヲ與ヘ母子ノ健康ヲ圖ルコト

ロ、幼兒ノ爲生業ヲ妨ケラル、者又ハ幼兒ノ保護救養ヲ充分ニ爲スコト能ハサル者アルトキハ之カ保育ヲ相當機關ニ委託セシムル等適當ノ手段ヲ講スルコト

ハ、育兒ニ關シ母姉ノ知識乏シキ者ニ對シテハ育兒方法ニ付相當注意ヲ與フルコト

ニ、繼子貰子里子私生兒ニ對シテハ特ニ營養狀態ニ意ヲ拂ヒ養育不適當又ハ虐待ヲ受クル者アルトキハ父兄ニ相當注意ヲ加ヘ尙不充分ナルトキハ相當手段ヲ講スルコト

ホ、棄兒遺兒迷兒ノ保護ニ關シテハ相當ナル手段ヲ講スルコト

ヘ、義務教育未就學兒童ニ對シテハ公費就學獎勵金ノ交付其ノ他資産家宗教家等ノ篤志ニ訴フル等適當ナル方法ヲ講シ就學セシムルコト

ト、不良少年少女浮浪少年少女犯罪少年少女並精神病白痴盲啞低能不具癡疾等ノ兒童又ハ少年少女ノ保護方法ヲ講スルコト

四、戸籍ノ整理

- イ、内縁ノ夫婦私生兒等變態的家庭關係ノ者アルトキハ届出ノ世話ヲ爲スコト
- ロ、出生届未了ノ者ニ對シテハ届出ノ世話ヲ爲スコト
- ハ、無籍者ノ發見ニ努メ就籍セシムルコト
- ニ、寄留者ノ整理ヲ爲スコト

五、社會衛生

- イ、家庭訪問ニ際シ患者アルコトヲ發見シタルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケシメ又貧困ノ爲醫師ノ診察ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ濟生會赤十字社其他相當救療機關ニ紹介斡旋ヲ爲スコト
- ロ、種痘ノ濟否ニ注意シ且癩結核トラホーム患者アルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケシメ又相當機關ト聯絡ヲ保チ法令ノ趣旨ヲ徹底セシムルコト
- ハ、部内ノ住宅上水下水等特ニ不良ナルカ其ノ他一般衛生上改善ヲ要スル事項ニ對シテハ機宜ノ方法ニ依リ之カ改善ノ途ヲ圖ルコト

六、雜件

- イ、貧家ノ子弟ニレテ學業特ニ優秀ナルモ進テ就學シ得サル者ニ對シテハ父兄ノ相談相手トナリ公共ノ育英資金ノ交付ヲ請ヒ又ハ篇志者ニ訴フル等之カ解決ニ努

ムルコト

ロ、不良住宅ノ改良ニ努ムルコト

方面委員設置規程實施內規

第一條 方面委員一人ノ受持世帯數ハ大凡三百戸ヲ標準トシ事情ニ依リ五百戸迄増加スルコトヲ得其ノ設置地域及員數ハ當該市町村長ノ意見ヲ聽キ知事之ヲ定ム

第二條 方面委員ニハ調査表用紙、名刺、手帳、門標徽章及提灯ヲ交付ス

第三條 各方面ニ於ケル事務ノ聯絡統一ヲ圖ル爲毎年一回縣内方面委員ノ總會及毎年數回各地方々面委員ノ會合ヲ開ク

第四條ノ一 方面委員總會ニ出席スル場合又ハ知事ニ於テ出張ヲ命シタル場合ハ旅費ヲ支給ス

前項ノ旅費額ハ三重縣給與規程第十一條旅費額第一表中二等月俸八拾五圓以上ニ相當スル額トシ其ノ支給ノ方法ハ三重縣旅費支給規程ヲ準用ス但定額以内ニ於テ打切ヲ支給ヲ爲スコトアルヘシ

第四條ノ二 前條ニヨリ旅費ノ支給ヲ受ケサルモノニ對シテハ手當トシテ一日金貳圓以內支給スルコトアルヘシ

備考 縣内旅行ノ場合ニハ管内、縣外旅行ノ場合ニハ管外額ヲ支給スルモノトス

第五條 方面委員ノ事務ヲ處理スル爲社會課ニ主任者一名ヲ置ク

第六條 方面委員病氣轉居其ノ他己ムヲ得サル事情ノ爲執務スルコト能ハサルトキハ

其ノ旨ヲ郡市長ニ届出ツヘシ

郡市長ハ前項ノ届出ヲ受ケ若ハ方面委員更迭ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ事情ヲ調査シテ囑託ノ解除ヲ知事ニ申請スルト同時ニ後任者ヲ推薦スヘシ

生活票記入注意

一、生活票記入

生活票ノ記入ハ必ス墨又ハ「インキ」ヲ以テスルコト

二、世帯

イ、世帯ニハ普通世帯ト準世帯トノ二種アルモ生活票ノ世帯トハ普通世帯ヲ意味スルモノトス

ロ、普通世帯トハ住居及家計ヲ共ニスル家族ノ集團ヲ云フ

ハ、一人ニテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者モ亦一ノ普通世帯トス

ニ、家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者ニ住居ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帯トス

ホ、住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ家計ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帯トス

ス

へ、間借自炊ヲ爲セル者ハ別ノ普通世帯トス

三、年齢

年齢「呼ヒ年」ヲ記入スルコト

四、職業

職業ハ農工商等ノ如ク總稱ニ依ラスシテ如何ナル種類性質ノ職業ナリヤ一見直ニ知リ得ル様細別シ日常ノ稱呼ニ基キ記入スルコト

五、本業副業ノ別

本業トハ主トシテ一身ヲ委スルモノヲ稱シ其ノ區分判明ナラサルトキハ收入額ノ多キモノヲ以テ本業ト定ムルコト

六、職業所得

一定ノ職業ヲ有セス單ニ恩給手當年金等ノ收入ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ同欄ニ恩給手當年金等ト附記シ其ノ收入額ヲ記入スルコト又官衙傭人或ハ職工等ノ如ク一定ノ賃銀ヲ受クル者ハ其ノ制度ニヨリ日給又ハ月給額ヲ、收入不定ノモノニ就テハ一年ノ收入見積額ヲ記入スルコト

七、教育程度

文字ナキ者

略號 (無)

假名ヲ知ル者

(假名)

尋常中途退學

(尋退)

尋常卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者

(尋卒)

高等小學中途退學

(高退)

高等卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者

(高卒)

中學中途退學

(中退)

中學校卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者

(中卒)

八、嗜好

嗜好物中酒ニ付テハ特ニ其ノ一日ノ飲量ヲ記入スルコト

九、宗教及貧困原因

別ニ示シタル分類ニヨルコト

一〇、記入事項ナキ欄ハ斜線ヲ以テ閉鎖スルコト

一一、裏面備考欄記入事項

(イ) 一家生活ノ狀況

(ロ) 非現住家族ノ氏名職業並其ノ生活狀況

(ハ) 失踪者ノ氏名

(ニ) 家族ニアラサル同居者ノ氏名職業

(ホ) 戸籍未整理ノ家族ニ付テハ世帯主トノ續柄及其ノ整理シ得サル理由

(ヘ) 私生兒庶子ニ付テハ内縁ノ夫婦間ニ生レタル者ト其ノ他ノ者トノ區分

(ト) 犯罪者ニ付テハ犯罪ノ種類年月日刑期罰金額等

(チ) 宗教ニ非サルモ宗教ニ類似ノ信仰若ハ迷信ヲ有スルモノハ其ノ旨ヲ記入スルコト

(リ) 扶養義務者ノ扶養額及公私團體ヨリ受クル救助金ノ如キハ其ノ金額並救助ヲ受ク

ル團體若クハ個人名救助ヲ開始セラレタル年月日等ヲ記入スルコト

宗教

一、佛教

眞宗、禪宗 (臨濟宗、曹洞宗、黃蘗宗) 淨土宗 (融通念佛宗、時宗) 日蓮宗、眞言

宗 (新義眞言宗、眞言律宗) 天臺宗、律宗、法相宗、華嚴宗

一、神道

神道、禊教、大社教、天理教、金光教、黑住教、修成教、扶桑教、神習教、大成教

一、キリスト教

實行教、神理教、御嶽教

日本聖公會、日本洗禮教會、日本基督教會、其他

| | |
|----|--|
| 備考 | |
|----|--|

| 項目 | 月別 | | | | | | | | | | | | 計 |
|---------|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | |
| 紛争上 | | | | | | | | | | | | | |
| 相人事上 | | | | | | | | | | | | | |
| 談衛生上 | | | | | | | | | | | | | |
| 指生活上 | | | | | | | | | | | | | |
| 教育上 | | | | | | | | | | | | | |
| 導 | | | | | | | | | | | | | |
| 保濟生 | | | | | | | | | | | | | |
| 醫師會 | | | | | | | | | | | | | |
| 治療交附會 | | | | | | | | | | | | | |
| 病院治療取扱 | | | | | | | | | | | | | |
| 妊産婦取扱 | | | | | | | | | | | | | |
| 行旅病人救護 | | | | | | | | | | | | | |
| 入退院取扱 | | | | | | | | | | | | | |
| 種痘類トフホリ | | | | | | | | | | | | | |
| △ニ關スル世話 | | | | | | | | | | | | | |
| 療 | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | | | | | | | | |

【第二種様式】

【甲】

方面委員取扱事項報告

郡市

村町

大正 年 月 日

方面委員

三、社會事業ト特志家トノ聯絡圖ルコト

四、社會事業ヲ指導誘掖シ且ツ其ノ經營方法ヲ幫助スルコト

五、社會事業ニ關スル行政ヲ翼賛スルコト

六、其ノ他役員會ノ議決ニ依リ必要ト認メタル事項

第五條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ前年度中ノ事務及會計ニ關スル報告ヲ爲シ其ノ他必要ナル事項ヲ議決ス

第六條 本會ハ會員ヲ分チ特別會員及通常會員ノ二種トス特別會員ハ本會ニ功勞アル者及學識名望アル者又ハ特別出資其ノ他ノ方法ニ依リ本會ノ事業ヲ援助スル者ノ中ニ就キ役員會ノ議決ヲ經テ推薦ス

通常會員ハ會費トシテ毎年金五圓ヲ納ムルモノトス

第七條 本會ノ會員タラント欲スル者ハ住所氏名ヲ記シテ申出ツヘシ或ハ救濟其ノ他社會事業ニ關スル團體ニシテ本會ノ會員タラムト欲スル者ハ其ノ團體名稱及所在地ヲ記シ代表者ノ名ヲ以テ申出ツヘシ

會員ノ住所氏名又ハ團體ノ名稱所在地若ハ代表者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨申出ツヘシ退會セムトスルトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長 一名

二、副會長 一名

三、理事 五名

理事中常務理事一名ヲ置ク

會長、副會長理事ヲ以テ役員會ヲ組織ス

役員會ニ於テハ豫算決算其ノ他重要ナル事項ヲ議決ス

役員會ノ議長ハ會長之ニ當リ其ノ議事ハ出席員ノ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルト

キハ議長ノ決スル所ニ依ル

第九條 會長ハ三重縣知事ヲ推舉ス

副會長ハ三重縣内務部長ヲ推舉ス

理事ハ總會ニ於テ之ヲ選舉ス

常務理事ハ理事ノ互選ニ依ル

第十條 選舉ニ依ル役員ノ任期ハ二年トス

役員中ニ缺員ヲ生シ補缺ノ必要アルトキハ補缺選舉ヲ行フ

補缺員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職

務ヲ行フモノトス

第十一條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ處理ス

第十二條 本會ニ評議員若干名ヲ置ク

第十三條 評議員ハ役員曾ノ議決ヲ經テ會長之ヲ囑託ス

評議員中官吏ノ職ニ在ル者ノ任期ハ其ノ在任期間中トス

評議員ハ本會ノ重大ナル事項ニ關シ會長ノ諮問ニ答申スルモノトス

第十四條 本會ハ必要ニ應ジ主事ヲ置ク主事ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

主事ハ會長之ヲ任免ス

主事ハ役員ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第十五條 本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一、會費

二、補助及寄附ノ金品

三、其ノ他ノ收入

第十六條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條 本會則ノ施行ニ必要ナル細則ハ役員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

附則

第十八條 從前ノ會則ハ大正九年十月二日限リ之ヲ廢止ス

三重縣社會事業協會十四年度歲入歲出豫算

| | | 歲入 | | 歲出 | | |
|-----|----|----|-----------|-----|-----|-----------|
| 第一款 | 雜會 | 收入 | 一一〇、〇〇〇 | 第一欸 | 事務費 | 四〇〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 補助 | 費 | 一〇〇、〇〇〇 | 第二欸 | 會議費 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 下付 | 金 | 七〇〇、〇〇〇 | 第三欸 | 事業費 | 一、二六〇、〇〇〇 |
| 第四欸 | 寄附 | 金 | 四〇〇、〇〇〇 | 第四欸 | 宣傳費 | 六五〇、〇〇〇 |
| 第五欸 | 繰越 | 金 | 七〇〇、〇〇〇 | | | |
| 第六欸 | 繰越 | 金 | 六〇〇、〇〇〇 | | | |
| 合計 | | | 二、六一〇、〇〇〇 | | | |

| | | |
|-----|-----|-----------|
| 第五款 | 積立金 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第六款 | 豫備費 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 二、六一〇、〇〇〇 |

四六

融和部大正十四年度歳入歳出豫算

| | | |
|-----|-------|-----------|
| 第一款 | 繰越金 | 二、五〇〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 寄附金 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 國庫補助金 | 三、〇〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 雑収入 | 二〇、〇〇〇 |
| 合計 | 歳出 | 七、五二〇、〇〇〇 |
| 第一款 | 融和部諸費 | 七、〇〇〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 豫備費 | 五二〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 七、五二〇、〇〇〇 |

三重縣社會事業協會重要記事

一、大正六年十一月二十五日 發會式ヲ津市會議場ニ於テ舉行ス

- 一、大正七年五月十一日 三重縣廳ニ於テ臨時總會ヲ開キ會則其ノ他諸件議定
- 一、大正七年八月二十五日 一身田町高田派本山專修寺ヨリ金壹百圓寄附
- 一、大正七年九月二十五日ヨリ四日間 大谷瑩詔師ヲ聘シ上野町、松阪町、桑名町、四日市ニ於テ社會事業ニ關スル講話會開催
- 一、大正七年十一月四日 本會事業助成ノ爲メ本縣ヨリ金壹百圓下付
- 一、大正七年十二月十七日 津市ニ於テ本會紀念講演會開催來會者八百名
- 一、大正七年十二月十六日 本縣技師松浦圓四郎氏ハ金壹百五拾圓ヲ同十七日野呂廣吉氏ハ金五拾圓ヲ本會ニ寄附
- 一、大正九年一月八日 津市慈善音樂會發起人總代白藤剛雄氏ヨリ金百八拾圓寄附
- 一、大正九年四月八日 本會事業助成ノ爲メ本縣ヨリ金七百圓下付
- 一、大正九年四月二十一日 私立三重盲啞院ハ本會ヨリ獨立シ内務部長ヲ院長ニ推戴シ主事明野觀海ヲシテ經營ノ任ニ當ラシム
- 一、大正九年五月五日 本會事業助成ノ爲メ本縣ヨリ金五百圓下付
- 一、大正九年五月二十六日 報德銀行取締役木村授彌太氏ヨリ同行創立滿十周年記念トシテ金貳拾圓寄附
- 一、大正九年八月六日 本會名稱「三重縣慈善協會」ヲ「三重縣社會事業協會」ト改稱

四七

- 一、大正九年十月二日 臨時總會ヲ縣廳ニ開催シ會則其ノ他ノ件審議
- 一、大正十年二月十一日付ヲ以テ宮内省ヨリ御下賜金壹百圓内務大臣ヨリ獎勵金壹百圓下付
- 一、大正十年四月四日付ヲ以テ三重縣知事ヨリ本會ニ對スル事業助成ノ爲金參百圓下付
- 一、矢吹文學士ヲ聘シ左ノ箇所ニ於テ社會事業宣傳講演會開催
 - 五月二十九日 午後一時ヨリ 桑名町本統寺
 - 同日 午後七時ヨリ 四日市市光運寺
 - 同日 三十日 午後一時ヨリ 宇治山田市欣淨寺
- 一、大正十年六月十六日付ヲ以テ事業助成ノ爲本縣ヨリ更ニ本年度ニ於テ金貳百圓下付
- 一、大正十一年二月十一日付ヲ以テ宮内省ヨリ御下賜金貳百圓内務大臣ヨリ獎勵金壹百圓下付
- 一、大正十一年三月九日 本會事業助成ノ爲本縣ヨリ金五百圓下付
- 一、大正十二年二月十一日 宮内省ヨリ御下賜金五百圓内務省ヨリ助成金五百圓下付
- 一、大正十二年五月五日 本會事業助成ノ爲本縣ヨリ金五百圓下付
- 一、大正十二年五月十五日 松阪町松阪病院長久留春三氏ヨリ金百四拾圓寄附
- 一、大正十二年十一月十四日 高田本山專修寺ヨリ金壹百圓寄附

一、大正十二年十二月五日 本會ニ融和部ヲ設ク

一、大正十三年一月十四日ヨリ五日間中央社會事業協會ト聯合シ縣會議場ニ於テ左記ノ講師ヲ招聘シテ講習會ヲ開催シ二百三名ニ講習證書授與

- 京都帝國大學教授文學博士 喜田貞吉
- 廣島高等師範學校長 吉田賢龍
- 京都帝國大學教授法學博士 山本美越乃
- 大谷大學教授 山邊習學

一、大正十三年六月二十日ヨリ八日間協同會、縣佛教會ト聯絡シ左記講師ヲ聘シテ三重縣會議場ニ社會政策講習會ヲ開催シ四百四十四名ニ講習證書授與

- 社會事業協會理事 田澤義輔
- 同 永井亨
- 文學博士 矢吹慶輝
- 法學博士 渡邊鐵藏
- 農學博士 佐藤寬治
- 東京地方職業局長 遊佐敏彦
- 文學博士 尾辨匡

産業能率研究所長 上野陽一

一、大正十三年六月二十八日 本會事業助成ノ爲本縣ヨリ金六百五拾圓下付

一、大正十四年二月四日 高田本山專修寺ヨリ金壹百圓寄附

一、大正十四年五月五日 本會事業助成ノ爲本縣ヨリ金七百圓下付

一、大正十四年六月二十一日ヨリ六日間縣佛教會ト聯合シ左記講師ヲ聘シ桑名町、上野町、松阪町ニ於テ各二日間社會事業講習會ヲ開催シ四百四十五名ニ講習證書ヲ授與セリ

社會局囑託 小島幸治

大阪府囑託 牧野虎次

一、大正十四年十月二十六日ヨリ四日間縣佛教會ト聯合シ左記講師ヲ聘シ尾鷲町、木ノ本町ニ於テ各二日間社會事業講習會ヲ開催シ三百十七名ニ講習證書ヲ授與セリ

大阪府囑託 牧野虎次

一、大正十四年十一月四日 本會助成ノ爲本縣ヨリ金四百五拾圓下付

●(二) 三重縣佛教會 (三重縣內務部社會課內)

時勢ノ推移ト思想ノ動搖トニ鑑ミ民衆ノ教化社會ノ改良ニ貢獻セシムル目的ヲ以テ各郡市ニ佛教團ノ組織ヲ勸勵シ各宗派聯合ノ下ニ社會的ニ活動ヲ促シタルカ大正九年末ニ至

リ漸ク之カ成立ヲ見ルニ至リタルヲ以テ縣ハ之カ統一聯絡ノ要アルヲ認メ大正十年三月縣佛教會ヲ創立シ縣知事之カ會長タリ

創立以來日尙淺ケレトモ講習會ヲ開催セルコト三回孰レモ盛會裡ニ其ノ目的ヲ遂ケ其ノ他總會縣外社會事業視察並補助各郡市佛教團事業費補助巡回活動寫真講演會等ヲ舉行セリ大正十四年度ニ於テハ既ニ縣社會事業協會ト共同シテ社會事業講習會ヲ桑名町、上野町、松阪町ニ開催シ更ニ十月末尾鷲町、木ノ本町ニ同様開催シ尙引續キ巡回講演會事業費補助等ヲナス等ナリ

三重縣佛教會々則

第一條 本會ハ三重縣佛教會ト稱シ縣內各郡市佛教團ヲ以テ組織ス

第二條 本會ハ佛教各宗派相協力シテ尊皇愛國ノ誠ヲ諭シ民衆ノ教化社會ノ改良ニ努ムルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ事務所ヲ三重縣廳社會課內ニ置ク

第四條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達セムカ爲官公署諸團體ト聯絡提携シテ左ノ事業ヲ行フ

- 一、民力涵養地方改良ニ關スル事業
- 二、人心ノ指導教化ニ關スル事業

三、適切ナル社會的事業

四、智徳ノ修養ニ關スル事業

五、其ノ他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第五條 本會ニ會長一名、副會長三名、顧問若干名、理事若干名、代議員若干名、幹事若干名ヲ置ク

會長ハ一切ノ會務ヲ綜理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

顧問ハ會長ノ諮問ニ答ヘ重要ノ會務ニ參與ス

理事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

代議員ハ各郡市佛教團ヨリ一名ヲ選出シ會長ノ召集ニ應ジ本會ノ豫算ヲ議決シ決算ヲ認定シ其ノ他重要事項ヲ議決ス

幹事ハ會長以下ノ命ヲ承ケ事務ヲ處理ス

第六條 會長ハ三重縣知事、副會長一名ハ三重縣内務部長ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ役員ハ會長之ヲ囑託ス

第七條 本會ノ經費ハ縣補助金、郡市佛教團ノ負擔金及一般ノ寄附金品ヲ以テ之ヲ支辨ス

第八條 本會ハ毎年一回代議員會ヲ開クモノトス

第九條 會長ハ本則施行ノ爲必要ナル細則ヲ設クルコト得

第十條 本則ノ修正改廢ハ代議員會ノ決議ニ依ル

第十一條 本則ハ大正十年三月十四日ヨリ之ヲ施行ス

三重縣佛教會大正十四年度歳入歳出豫算

附 則

第十一條 本則ハ大正十年三月十四日ヨリ之ヲ施行ス
三重縣佛教會大正十四年度歳入歳出豫算

| | | | |
|-----|---|---|-----------|
| 一、線 | 越 | 金 | 五〇〇、〇〇〇 |
| 二、會 | 會 | 費 | 六六九、〇〇〇 |
| 三、雜 | 收 | 入 | 五、〇〇〇 |
| 四、縣 | 補 | 助 | 九〇〇、〇〇〇 |
| 五、寄 | 附 | 金 | 五、〇〇〇 |
| 合 | 計 | | 二、〇七九、〇〇〇 |
| 一、事 | 務 | 歳 | 出 |
| 二、會 | 議 | 費 | 三〇〇、〇〇〇 |
| | | | 一五〇、〇〇〇 |

三、事業費
四、豫備費
合計

一、五二〇、〇〇〇
一〇九、〇〇〇
二、〇七九、〇〇〇

第四 救貧防貧事業

一、窮民救助

本件ニ關シテハ前記大禮記念恩賜賑恤金ノ部ニ記載シタル明治七年十二月太政官達恤救規則ニ該當スルモノト大正四年十一月御即位大典ニ際シ下賜セラレタル大禮記念恩賜賑恤金ニ依リ救助スルモノトアリ而シテ現ニ右救助金ニ依リテ救助シツ、アル人員並救助額ヲ郡市別ニ示セハ左ノ如シ

| 郡市名 | 恤救規則ニ依ル救助 | | 大禮記念恩賜賑恤金ニ依ル救助 | | 合計 | |
|-----|-----------|-------|----------------|--------|----|---------|
| | 人員 | 救助年額 | 人員 | 救助年額 | 人員 | 救助年額 |
| 桑名郡 | 八 | 七三、〇 | 二 | 二四九、六 | 一〇 | 九八七、六 |
| 員辨郡 | 六 | 五八九、五 | 五 | 四〇三、二 | 一一 | 九九二、七 |
| 三重郡 | 四 | 三八九、五 | 八 | 一、三六、〇 | 一二 | 一、六二五、五 |

| 郡市名 | 人員 | 救助年額 | 人員 | 救助年額 | 人員 | 救助年額 |
|-------|----|--------|----|---------|-----|----------|
| 鈴鹿郡 | 一 | 一一〇、〇 | 三 | 二五二、〇 | 四 | 三六二、〇 |
| 河藝郡 | 四 | 六三五、〇 | 二 | 三五〇、四 | 七 | 九八五、四 |
| 安濃郡 | 六 | 五五〇、〇 | 八 | 一、四四、〇 | 一四 | 六九四、〇 |
| 一志郡 | 八 | 七三二、五 | 二 | 一、二四九、二 | 一〇 | 一、九八一、七 |
| 飯南郡 | 一 | 四九二、五 | 一 | 一、八九〇、〇 | 二 | 二、三八二、五 |
| 多氣郡 | 一 | 一八一、五 | 一 | 二四八、四 | 二 | 四三〇、九 |
| 度會郡 | 一 | 八〇、〇 | 一 | 九〇七、二 | 二 | 九八七、二 |
| 阿山郡 | 七 | 五七三、五 | 一 | 七二、〇 | 八 | 六四五、五 |
| 名賀郡 | 四 | 三〇一、五 | 五 | 四四四、〇 | 九 | 七四六、五 |
| 志摩郡 | 一 | 一八〇、〇 | 二 | 二四、〇 | 三 | 三八四、〇 |
| 北牟婁郡 | 一 | 一一〇、〇 | 一 | 一一〇、〇 | 二 | 二二〇、〇 |
| 南牟婁郡 | 一 | 一〇、〇 | 一 | 一〇、〇 | 二 | 二〇、〇 |
| 津市 | 一 | 一〇、〇 | 三 | 三七四、四 | 四 | 三七四、四 |
| 四日市 | 一 | 七〇、〇 | 二 | 四五二、四 | 三 | 五二二、四 |
| 宇治山田市 | 一 | 八〇、〇 | 一 | 二四四、八 | 二 | 三二四、八 |
| 計 | 五九 | 五、八五、五 | 六八 | 八、八四一、六 | 一二七 | 一四、六五七、一 |

二、行旅病人及行旅死亡人取扱

本件ニ關シテハ前記教育費ノ部ニ記載シタル明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ基キ明治四十一年八月三重縣令第七十五號ヲ以テ左記規程ヲ設ケ取扱ヒツ、アリ而シテ大正十三年中ノ取扱數ハ五十四名ニシテ之ヲ郡市別ニ舉クレハ左ノ如シ

| | | | |
|-----|---|-------|---|
| 桑名郡 | 八 | 度會郡 | 四 |
| 員辨郡 | 一 | 阿山郡 | 二 |
| 三重郡 | 三 | 名賀郡 | 三 |
| 鈴鹿郡 | 六 | 志摩郡 | 二 |
| 河藝郡 | 一 | 北牟婁郡 | 五 |
| 安濃郡 | 一 | 南牟婁郡 | 二 |
| 一志郡 | 一 | 津市 | 九 |
| 飯南郡 | 三 | 四日市市 | 六 |
| 多氣郡 | 一 | 宇治山田市 | 一 |

行旅病人行旅死亡人及其同伴者救護及取扱ニ關スル規程

第一條 市町村長ニ於テ行旅病人行旅死亡人取扱法ニ依リ行旅病人行旅死亡人及其ノ

同伴者ノ救護若ハ取扱ヲ爲シタルトキハ其顛末ヲ知事ニ報告スヘシ

被救護者引取ヲ爲ス者ナキトキハ現ニ救護ヲ爲ス市町村長ニ於テ引繼キ其ノ事務ヲ

取扱フ可シ

前二項ノ場合ニ於テ救護ノ日數二十日以上ニ及フトキハ二十日毎ニ其狀況ヲ報告スヘシ

第二條 前條ノ救護若ハ取扱ニ要スル費用ハ特別ノ事情アル場合ノ外ハ左ノ限度ニ依ルヘシ其ノ救護ヲ公私ノ施設又ハ私人ニ委託シ費用ヲ要スルトキハ亦同シ

救護諸費

一、醫師診察料

一、同 手術料

一、同診察書料

一、藥價

以上ノ諸費ハ其ノ郡市醫師會ノ決定額以內

一、療養所借入料

一、小屋掛料

一日金貳拾錢以內

一式金五圓以內

- 一、入院料 下等實費
- 一、食料 一度金拾錢以內
- 一、看護人雇料 一人ニ付 一晝夜金七拾錢以內
- 一、產婆雇料 一人ニ付 一日金壹圓以內
- 一、療養ニ關スル必要品費 一日金參拾錢以內
- 一、雜費 被服寢具借入料其ノ他 一日金參拾錢以內
- 一、護送人夫賃 薪炭油等ノ諸費 一人ニ付 一日金七拾錢以內
- 送還諸費
- 一、宿泊料 一夜金壹圓五拾錢以內
- 一、晝食料 一度金參拾錢以內
- 一、汽車賃、汽船賃、車駕賃 下等實費
- 附添人ヲ要スルトキハ宿泊料、汽車賃、汽船賃、車駕賃ハ被護者ト同額トシ尙日常金壹圓以內ヲ給ス
- 取扱諸費 郡市醫師會決定額以內
- 一、屍體檢案及檢案書料 一人ニ付 一晝夜ニ付金壹圓以內
- 一、屍體番人費

- 一、屍體運搬人夫費 一人ニ付 一日金壹圓五拾錢以內
- 一、假土葬費 一式金五圓以內
- 一、火葬費 一式金六圓以內
- 一、廣告料 實費
- 第三條 官報若クハ新聞紙ニ公告ヲ爲スハ一回ヲ限度トシ看護人、產婆、送還附添人ハ各一人、護送人夫、屍體番人、屍體運搬人夫ハ各二人以內トス
- 第四條 行旅死亡人ノ遺留品及行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ノ用ニ供シタル物件ハ左ノ場合ニ限リ競賣ニ付セサルコトヲ得
 - 一、有價證券ハ時價以上ニ賣却シ得ヘキトキ
 - 一、其ノ他ノ物件ハ見積價格拾圓未滿ナルトキ
- 第五條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ノ用ニ供シタル物件ノ賣却代金ハ其ノ救護若ハ取扱費ノ繰替金ニ戻入スヘシ
- 第六條 行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ係ル費用ノ辨償ヲ求ムルトキハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
 - 一、費用計算書
 - 一、支拂金領收書

一、遺留品又ハ不用品賣却調書
一、其ノ他ノ關係書類

第七條 行旅病人及行旅死亡人取扱法第四條第十一條ニ依リ費用ノ辨償ヲ得タルトキハ計算書ヲ添付シ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

三、罹災救助

本件ニ關シテハ前記罹災救助基金ノ部ニ記載シタル明治卅二年三月法律第七十七號罹災救助基金法ニ基キ左記規程ヲ設ケ取扱ヒツ、アリ

罹災救助ニ關スル規程

罹災救助ニ關スル規程

三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程

市町村罹災救助資金補助方法

市町村罹災救助資金補助請求手續

市町村罹災救助資金監督規程

(1) 罹災救助ニ關スル規程

(大正八年三月三十一日)
縣訓令甲第五號

第一條 災害ニ際シ罹災救助基金ノ支出ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ其ノ狀況ヲ詳具シ直ニ之ヲ報告スヘシ

第二條 罹災救助基金ノ救助ヲ請フ者アルトキハ市町村長ハ第一號乃至第八號書式ニ依リ食料其ノ他ノ仕譯書人員調書並資産及納稅調書ヲ差出スヘシ但町村長ハ所屬郡長ヲ經由スヘシ

第三條 罹災ノ狀況ニ依リ避難所、小屋掛、焚出及治療ノ救助ヲ要スト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ直ニ施行ニ着手シ同時ニ之ヲ報告スヘシ

第四條 郡長又ハ市長ニ於テ前條ノ救助ヲ施行シタルトキハ第九號乃至第十三號書式ノ仕譯書及物品購買代金若ハ物件借入損料人夫賃等ノ請求書ヲ徴シ之ヲ差出スヘシ
第五條 食料被服小屋掛材料就業ニ要スル資料器具及學用品ノ救助ハ其ノ種類數量日數ヲ指定シ郡長又ハ市町村長ヲシテ之ヲ施行セシムルコトアルヘシ

前項ニ依リ救助ヲ施行セシメタルトキハ郡長又ハ市町村長ハ物品購買代金ノ請求書ヲ徴シ之ヲ差出スヘシ但シ町村長ハ所屬郡長ヲ經由スヘシ

第六條 食料費被服費小屋掛材料費就業費及學用品費ヲ金錢ヲ以テ救助スルノ必要アリト認ムルトキハ郡長又ハ市長ハ其ノ理由ヲ詳具シ之ヲ申請スヘシ
前項ニ依リ金錢救助ヲ施行シタルトキハ第六號書式ニ依リ第一號乃至第五號仕譯書

ニ基ク金錢領收書ヲ徴シ之ヲ差出スヘシ
第七條 罹災救助ニ際シ實費ヲ以テ支出スルモノニシテ其ノ材料又ハ賃金過當ナリト
認ムルトキハ之ヲ減額若ハ削除スルコトアルヘシ

附 則

本規程ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號(二通)

食料仕譯書

一白米何程

何市(町村)
(戸主)

何 之

外何名分 誰

此代金何程

但一石ニ付金何程(下米相場)

内

白米何程

何 之

誰

但人員何人一人米何合何日分

白米何程

何 之

誰

但、、、、

白米何程

之 誰

但、、、、

右之通ニ有之候也

右

市(町村)長

何 之 誰 印

第二號(二通)

被服仕譯書

何市(町村)
(戸主)

何 之

外何名分 誰

一被服何人分

此代金何程

但一人ニ付金何程

内

被服何人分

何 之

誰

被服何人分

何 之

誰

右之通ニ有之候也

何 之

誰

年月日

右

六四

第三號(二通)

小屋掛材料仕譯書

市(町村)長 何 之 誰 印

一 小屋掛材料 家族三人以上何戸分

何市(町村) (戸主) 何 之 誰

此代金何程

外何人

但家族三人以上一戸金何程同三人未滿一戸金何程

内

小屋掛材料 家族三人以上一戸分

何 之 誰

同 同 半戸分

何 之 誰

同 同 家族三 一戸分

何 之 誰

同 同 人未滿 半戸分

何 之 誰

右之通ニ有之候也

右

市(町村)長 何 之 誰 印

第四號(二通)

器具(又ハ學用品費)仕譯書

何市(町村)

何 之 誰

外何名分

一 鍬 何 挺 代金何程 一挺ニ付金何程

一 鎌 何 挺 同

一 何 々 同 同

一 何 々 同 同

計 金 何 程

内

何業

何 之 誰

一 鍬 何 挺

一 鎌 何 挺

一 何 々

六五

何業
何之誰

一何々
一何々
一何々

右之通ニ有之候也
年月日

右

(農具ノ救助ヲ請フモノハ別ニ耕作地反別取調書ノ添付ヲ要ス)

市(町村)長 何之誰印

第五號(二通)

資料仕譯書

何市(町村)

何之誰

外何名分

一種籾何程

此代金何程一石ニ付何程ノ割

一何々

此代金、、、、

一何々

此代金、、、、

計金何程

内

種籾何程

何々

何々

右之通ニ有之候也

年月日

右

市(町村)長 何之誰印

(種穀ノ救助ヲ請フルモノハ別ニ耕作地反別取調書ノ添付ヲ要ス)

第六號(一通)

金錢領收書

一金何程

内

金何程

但白米何程分一斗ニ付金何程

金何程

但被服何人分一人ニ付何程

金何程

但小屋掛材料費家族三人以上又ハ三人未滿

金何程

但何々何挺分一挺ニ付金何程

金何程

但種粃何程分一斗ニ付金何程

金何程

但書籍文房具何人分一人ニ付金何程

右領收候也

年月日

罹災救助費

食料費

被服費

小屋掛材料費

器具費

資料費

學用品費

何郡(市)町村大字番地

何之誰印

第七號(一通)

人員取調書(他へ寄留又ハ他出不在者ハ除クヘシ)

何市(町村)

姓名

何年何月何日生

父名

何年何月何日生

母名

何年何月何日生

妻名

何年何月何日生

長男名

何年何月何日生

何々

右之通相違無之候也

年月日

何年何月何日生

七〇

右

市(町村) 何之誰印

第八號(一通)

資産及納稅調書

何市(町村)

何之誰

一所有地(地種別)何反步地價金何程

一建家(種類別)何棟建坪何程

一所有金預金何程

一何々(動産)何個見積價格何程

一何々、々、

一直接國稅一ヶ年納額何程

一縣稅同上

右之通ニ有之候也

年月日

右

市(町村)長 何之誰印

第九號(二通)

焚出諸費仕譯書

一金何程

何市(町村)ニ係ル焚出シ諸費

内

金何程

白米何程代

但何月何日ヨリ何月何日迄何日間現人員何人此延何人ニ付一日米何程

内

金何程

白米何程 一石ニ付 金何程

金何程

白米何程 一石ニ付 金何程

金何程

雜費

但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人ニ付一日金何程

内

金何程

梅干何程代

但一升ニ付金何程

金何程

味噌何貫目代

但一貫目ニ付金何程

金何程

人足賃

但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人一日金何程

金何程

何々借入代

但云々

金何程

何々

但云々

右之通相違無之候也

年月日

郡(市)長 何之 某印

第十號(二通)

小屋掛(或ハ避難所)諸費仕譯書

一金何程

内

金何程

小屋掛費(或ハ避難所諸費)

金何程

人足何人一人ニ付金何程

金何程

大工何人一人ニ付金何程

金何程

木材何本一本ニ付金何程

金何程

竹 何束一束ニ付金何程

金何程

繩 何束一束ニ付金何程

金何程

何 々、々、々、々、

但何月何日ヨリ何日迄何日間一日ニ付金何程

金何程

建 家 借 入 代 何 々、々、々、々、

右之通相違無之候也

年月日

郡(市)長 何之 某印

第十一號(二通)

治療費仕譯書

一金何程

何市(町村)罹災者治療費

内

金何程

醫師手當

但何月何日ヨリ何日迄何日間何人分延日數何日一日金何程

金何程

藥價

但何藥何服分一服ニ付金何程患者何人何日分

金何程

何々、

右之通相違無之候也

年月日

郡(市長)何之某印

第十二號(二通)

運搬用具費仕譯書

一金何程

何市(町村)運搬用具費

内

金何程

荷車借入料

但延何輛分一輛ニ付一日金何程

金何程

船借入料

但延何艘ニ付一日金何程

金何程

何々借入料

但云々

右之通ニ有之候也

年月日

郡(市長)何之誰印

第十三號(二通)

人夫費仕譯書

一金何程

何市(町村)人夫費

内

金何程

人夫費

但延何人分一人ニ付一日金何程

右之通ニ有之候也

年月日

郡(市長)何之誰印

(2) 罹災救助ニ關スル内規 (大正八年三月三十一日 番外内訓)

第一條 罹災救助基金ヲ以テ救助ヲ爲スハ左ノ場合ニ限ルモノトス

一 市町村内總戸數十分ノ一以上若ハ市町村内戸數五十戸以上同一ノ災害ニ罹リ救助ヲ要スル者アルトキ

二 市町村内耕作地總反別五分ノ一以上災害ニ罹リタル場合ニ於テ收穫七分以上ヲ失ヒ種穀ノ救助ヲ要スルモノアルトキ

三 海上其ノ他ニ於テ三十人以上同一ノ災害ニ罹リ資料又ハ器具ヲ亡失シ其ノ援助ヲ要スル者アルトキ

第二條 罹災者ニシテ直接國稅縣稅ヲ併セ年額五圓以上ヲ納ムル者ハ之ヲ救助セズ但シ避難所ニ收容シ焚出ヲ給與シ及治療ヲ施スハ此ノ限ニアラス

前項ニ該當スル者ト雖其ノ生活狀態救助ヲ要スル者ト同一ト認ムルトキハ知事ノ認可ヲ得テ救助スルコトヲ得

(3) 三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程 (明治三十二年八月十一日 縣令第五十三號)

第一條 罹災救助基金ノ管理ハ左ノ規程ニ依ルヘシ

一 現金ハ縣金庫又ハ現金管守者ヲシテ之ヲ保管セシム但シ縣金庫ヲシテ保管セシ

ムルトキハ擔保トシテ其ノ金額以上ノ國債證書、勸業債券、日本興業銀行債券、農工債券、北海道拓殖銀行債券ヲ領置ス

二 國債證書其ノ他ノ財産ハ總テ縣廳ニ於テ保管ス

第二條 罹災救助ノ爲メ食料費、被服費、小屋掛材料費、就業費、學用品費、避難所費、小屋掛費、治療費、運搬用具費、人夫費ヲ支出スルハ左ノ程度ニ依ル

一 食料費 一人 一日 白米四合 雜費貳錢

但シ雜費ハ焚出ノ場合ニ限ル

二 被服費 一人 自五月至九月 金貳圓 自十月至四月 金貳圓五拾錢

三 小屋掛材料費 一戸 家族三人以上 金拾參圓 同 三人未滿 金拾圓

但シ家屋災害ニ罹ルモ尙小屋掛ヲ營ム用ニ充ツヘキ幾許ノ古材ヲ存スルモノハ半額トシ家族人員ノ計算ハ十五歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人トシ同居ノ家族ハ之ヲ算入ス

四 就業費 一戸 金貳拾五圓以內
五 學用品費 一人 金壹圓五拾錢以內

六 避難所費
小屋掛費
治療費
運搬用具費
人夫費

實費

第三條 罹災ノ狀況ニヨリ必要ト認ムル場合ニ在リテハ前條第一號及第六號ノ程度以內ニ於テ焚出ヲ爲シ又ハ食料費、被服費、小屋掛材料費、就業費及學用品費ハ金銭ヲ以テ救助スルコトヲ得

(4) 市町村罹災救助資金補助方法

第一條 市町村ニ於テ其ノ住民ノ災害ニ罹リタル者ニ救助スル方法ヲ設ケ其ノ資金ヲ蓄積スルトキハ罹災救助基金ヨリ之ヲ補助ス

第二條 市町村罹災救助資金補助額ハ毎年金參萬圓以內ニ於テ其ノ豫算ヲ定メ市町村ニ於テ其ノ年積立タル金額ニ對シ同額以內ノ金額ヲ交付シ該資金ニ編入セシム但シ其ノ積立額カ縣ノ補助額ノ二十分ノ一ヲ超ユルトキ又ハ一時ニ資金ノ全部ヲ積立ツル場合ニ在リテハ補助ノ歩合ヲ減スルコトアルヘシ

第三條 罹災救助基金ノ貯蓄額ニシテ罹災救助基金法第三條ノ制限額ヲ下ルコトアルトキハ其ノ制限額以上ニ達スル迄補助ヲ停止ス

(5) 市町村罹災救助資金補助請求手續

第一條 市町村罹災救助資金補助方法ニ依リ補助ヲ受ケントスル市町村ハ其ノ年度ニ屬スル資金ノ蓄積ヲ了シタル後之ヲ請求スヘシ但シ第二條ノ期限ヲ過キ蓄積シタルモノニ在リテハ次年度ニ於テ其ノ年分ト併セテ之ヲ請求スヘシ

第二條 前條ノ請求書ニハ別記書式ニ依リタル資金積立額計算書ヲ添付シ毎年十一月十五日マテニ市ハ知事ニ町村ハ郡長ニ差出スヘシ

第三條 郡長ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ集計表ヲ添付シ毎年十一月二十日マテニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

(別記)

市町村罹災救助資金積立額計算書

一金

大正某年度積立豫定額

内

大正年月日一般會計ヨリ積立額

大正年月日同上(二回ニ積立タルトキノ例)

一金

補助請求額

一金

大正某年度首罹災救助基金現在高

内

現金

預金公債社債券額面若干ノ原價

(6) 市町村罹災救助資金監督規程

第一條 市町村ニ於テ罹災救助資金ヲ蓄積スルトキハ左ノ定額ヲ最低限度トシ毎年度ノ蓄積額ハ條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

戸數五百戸未滿ノ町村 千五百圓

戸數五百戸以上二千戸未滿ノ町村 參千圓

戸數二千戸以上ノ町村及市 六千圓

第二條 市町村罹災救助資金ハ罹災救助基金法第二條ノ規程ニ該當セサル場合ニ於ケル罹災者ヲ救助スル費用ニ充ツルノ外之ヲ他ノ費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三條 市町村罹災救助資金ヨリ生スル收入ハ罹災救助費ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第四條 市町村罹災救助資金ノ元資ヲ費消スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其補充ノ方法ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 市町村罹災救助資金ノ蓄積額第一條所定ノ金額以上ニ達シタル市町村ニ於テ

ハ其永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スルカ爲若ハ天災事變等ノ爲メ市町村債ヲ起ス必要アル場合ニ限り知事ノ許可ヲ受ケ資金二分ノ一以内ノ金額ヲ一般會計ニ繰入ル、コトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ補充方法ヲ定メ併セテ知事ノ許可ヲ受ヘシ
前項繰入金ノ補充ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ金額及年月日ヲ知事ニ報告スヘシ

第六條 市町村罹災救助資金ハ特別會計トシ其ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス
一 國債、地方債又ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、三重縣農工銀行ノ債券ノ募集

ニ應シ若ハ其ノ證券ヲ買入ル、コト

二 大藏省預金若ハ郵便貯金トナスコト

三 擔保ヲ徵シ確實ナル銀行ニ利付預ケトナスコト

第七條 市町村罹災救助資金ノ管理及支出ニ關スル方法ハ市町村ニ於テ之ヲ定メ市ニ在リテハ知事町村ニ在リテハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

四、施藥救療

●(イ) 恩賜財團濟生會

明治四十五年五月財團濟生會ヨリ同會救療事業ノ實施ヲ依託セラレタルヲ以テ縣下公私立病院各開業醫及齒科醫師、藥局ヲ開設セル藥劑師會ニ交渉ヲ遂ケ之カ實施方法ヲ定メ普ク其ノ恩惠ニ浴セムコトヲ期シ諸般ノ事務ニ從事セシムル爲專務事務員ヲ置ク而シテ救療方法ハ警察官吏、市町村長ニ於テ其ノ必要アリト認ムルモノニ對シ治療券ヲ交付シ病院又ハ醫師ニ治療ヲ受ケシム其ノ程度ハ貧困ニシテ醫藥ヲ得ルノ資力ナキ傷病者ヲ救濟スルモノニシテ治療ニ關スル例規及ヒ大正元年度以降ノ各郡市救療患者ハ左記ノ如シ

救療患者表

| 郡市名 | 大正元年度 | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | 六年 | 七年 | 八年 | 九年 | 十年 | 十一年 | 十二年 | 十三年 |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 桑名 | 二六 | 三二 | 三六 | 四一 | 四七 | 四二 | 四七 | 四七 | 三〇 | 四二 | 二四 | 三二 | 三五 |
| 員辨 | 三九 | 四〇 | 四八 | 五二 | 四二 | 五〇 | 四〇 | 四三 | 三三 | 二二 | 二五 | 一九 | 三七 |
| 三鹿 | 八四 | 六八 | 八〇 | 七六 | 四九 | 四七 | 五三 | 四二 | 三二 | 三三 | 三七 | 九九 | 七七 |
| 鈴鹿 | 三三 | 三九 | 四〇 | 四二 | 四三 | 四三 | 四三 | 四二 | 三〇 | 三三 | 二四 | 一九 | 三三 |
| 河藝 | 三三 | 三九 | 四〇 | 四二 | 四三 | 四三 | 四三 | 四二 | 三〇 | 三三 | 二四 | 一九 | 三三 |
| 安濃 | 六〇 | 三二 | 三三 | 三三 | 二八 | 二四 | 二六 | 二四 | 二六 | 二九 | 二四 | 二七 | 二八 |
| 志濃 | 一三四 | 一三七 | 一三四 | 一四〇 | 一三七 | 一三〇 | 一五二 | 一三三 | 一二六 | 一八八 | 二〇二 | 二五八 | 二三八 |

| 郡市名 | 大正元年度 | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | 六年 | 七年 | 八年 | 九年 | 十年 | 十一年 | 十二年 | 十三年 |
|------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 飯南 | 五八 | 七六 | 六九 | 五二 | 四八 | 七九 | 九八 | 八〇 | 七二 | 八四 | 一〇九 | 一四九 | 二三三 |
| 多氣 | 三八 | 二七 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二四 | 二四 | 二六 | 二二 | 二七 | 二二 | 二八 |
| 度會 | 三三 | 五五 | 四六 | 四七 | 二八 | 四七 | 一五 | 三三 | 二六 | 九 | 一九 | 六 | 八 |
| 阿賀 | 五五 | 五五 | 六七 | 四七 | 三三 | 二四 | 一七 | 三〇 | 一六 | 一五 | 一七 | 二四 | 二八 |
| 名山 | 五七 | 八八 | 九八 | 七六 | 三三 | 二四 | 一九 | 三〇 | 二五 | 一六 | 一五 | 二四 | 二八 |
| 志摩 | 四二 | 三五 | 四八 | 一〇 | 三三 | 二四 | 一九 | 二五 | 二〇 | 一六 | 二二 | 一九 | 二〇 |
| 北牟婁 | 三三 | 一六 | 四八 | 一〇 | 三三 | 二四 | 一九 | 二五 | 二〇 | 一六 | 二二 | 一九 | 二〇 |
| 南牟婁 | 三三 | 一六 | 四八 | 一〇 | 三三 | 二四 | 一九 | 二五 | 二〇 | 一六 | 二二 | 一九 | 二〇 |
| 津市 | 三六 | 四一 | 二四 | 三〇 | 二二 | 一九 | 二二 | 三三 | 二〇 | 一四 | 二二 | 二〇 | 二〇 |
| 四日市 | 四八 | 三二 | 三三 | 二八 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 | 二二 |
| 宇治山田 | 三七 | 五九 | 五六 | 四四 | 五五 | 四七 | 五八 | 四〇 | 三九 | 五二 | 三七 | 五二 | 五二 |
| 合計 | 六七〇 | 九三五 | 一、〇三二 | 一、〇八一 | 一、〇一五 | 一、三六一 | 一、三四二 | 一、〇六八 | 一、〇八一 | 一、四六一 | 一、〇九二 | 一、五三二 | 二、二七六 |

三重縣告示第十五號

財團濟生會治療券交付順序左ノ通り定ム

大正元年八月七日

三重縣知事 久保田政周

恩賜濟生會治療券交付順序

- 第一條 治療券ノ交付ヲ受クヘキ者ハ縣下ノ住民ニシテ其ノ疾患ニ際シ醫藥自ラ給スルコト能ハス又扶養義務者ナク若ハ之アルモ扶養スルノカナク治療ヲ爲スニ非サレハ他ニ救療ノ途ナキ者ニ限ルモノトス
- 第二條 治療券ハ豫メ郡市長ニ配付ス郡長ハ適宜之ヲ町村長ニ配付スヘシ
- 第三條 治療券ハ市町村長ニ於テ保管スヘシ但シ區域廣濶ナル市町村ニ在リテハ便宜之ヲ區長ニ分管セシムコトヲ得
- 市町村長ハ治療券交付簿ヲ備ヘ其ノ授與ヲ明ニシ又必要ニ應シ市長ハ知事ニ町村長ハ郡長ニ其ノ増配付ヲ請求スヘシ
- 第四條 郡・市・町村長、區長、衛生組長及警察官吏ハ常ニ部内住民ノ實況ニ注意シ若シ救療ヲ要スル患者アリト認ムルトキハ區長及衛生組長ニ在リテハ市町村長ニ稟議シ警察官吏ニ在リテハ郡市長又ハ町村長ニ注意シテ治療券交付ノ手續ヲ爲サシメ最寄醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ但シ第三條第一項但書ニ依リ治療券ヲ保管スル區長ハ急ヲ要スル患者ニ對シ直チニ之ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ所轄市町村長ノ承認ヲ受クヘシ

第五條 削除

第六條

治療券ヲ所持スル患者ノ診療ニ從フ醫師ハ診療中其ノ治療券ヲ領置シ時々病狀經過投藥施術其ノ他必要ノ事項ヲ記入スヘキモノトス

治療券ノ有効期間ハ一ヶ月トス但シ一ヶ月以内ト雖モ治療シ又ハ死亡シ若ハ治療ヲ休止シ醫及師ヲ代フルコトアルコトニ其ノ効用ヲ終ルモノトス

第七條

前條ノ治療券ハ毎年ヲ二期ニ區分シ前期ハ七月ヨリ十二月マテ後期ハ一月ヨリ六月マテトシ毎期用濟トナリタル分ヲ取纏メ翌月十日マテニ當該醫師ヨリ所轄郡

市役所ニ回付スヘキモノトス

第八條

郡市長ハ前條回付ヲ受ケタル治療券ヲ調査シ前期分ハ一月末日後期分ハ七月末日マテニ別表様式ニ依リ知事ニ報告シ同時ニ郡市醫師會ニ通報スヘシ

(別表略)

三重縣告示第二十一號

恩賜濟生會處方箋ニ關スル件左ノ通り定ム

大正元年八月十六日

三重縣知事 久保田政周

第一條

恩賜濟生會處方箋ニ關スル件
財團濟生會治療券交付順序(以下單ニ順)第一條該當ノ患者ニ對シ市町村長ハ時宜ニヨリ處方箋用紙ヲ交付シ醫師ノ診察ヲ受ケ最寄藥劑師ノ調劑ヲ求メシムヘシ

前項調劑ノ求ヲ受ケタル藥劑師ハ該處方箋ヲ領置シ調劑ノ都度必要ノ事項ヲ記入スヘシ

第二條 前條處方箋ニシテ其ノ効用ヲ終リタルモノハ、三重縣藥劑師會ニ於テ之ヲ取纏メ順序第七條ノ例ニ例リ縣廳ニ回付スヘシ

恩賜財團濟生會處方箋

| | | |
|----|------------|------|
| 患者 | 郡市 | 年月日生 |
| | 村町 | |
| 右要 | 日間持長 | 醫師 |
| | 處方大正 年 月 日 | |

(裏)

調劑

| | | | | | |
|------------|-------|--------------|-------|-------|------|
| 恩賜財團濟生會處方箋 | 調劑第 號 | 本會接受大正 年 月 日 | 月 日 | 種類及員數 | 計 實價 |
| | | | 郡市 村町 | | |
| 治療所 | 取扱所 | 大正 年 月 日交付 | 水日分 | 散日分 | 何日分 |
| | | | 計 | 器 | 器 |

(裏)

●(口) 村 管 醫 師

本縣志摩郡ノ戸數少キ部落ニ於テハ氣候風土ニ影響ヲ受ケテ醫師ノ需用少ク隨テ適當ナル開業者ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ町村ニ常時在住セシメテ住民ノ救急其ノ他救恤ヲ受ケシムル爲町村費ヲ以テ補助ヲ爲シ町村醫ヲ囑託スル向アリ同郡ニ於ケル村當醫師設置ノ町村並ニ大正十四年度ノ豫算左ノ如シ

| | | | |
|------|-----------|-----|-----------|
| 町村名 | 大正十四年度豫算額 | 町村名 | 大正十四年度豫算額 |
| 桃取村 | 五〇〇圓 | 答志村 | 六六〇圓 |
| 神島村 | 一、〇八〇圓 | 菅島村 | 四三〇圓 |
| 布施田村 | 二〇〇圓 | 坂手村 | 四八〇圓 |
| 加茂村 | 七四四圓 | 長岡村 | 八〇〇圓 |
| 的矢村 | 四〇五圓 | 和具村 | 八〇〇圓 |
| 安乘村 | 四八〇圓 | 神明村 | 四二〇圓 |
| 立神村 | 五〇〇圓 | 甲賀村 | 三〇〇圓 |
| 越賀村 | 二〇〇圓 | 志島村 | 四〇〇圓 |
| 畔名村 | 三八五圓 | 波切村 | 七二〇圓 |

船越村 二四〇圓
御座村 八〇四圓

片田村

三〇〇圓

實施ノ狀況ハ服務規程又ハ契約者ニ依リ公種痘、トラホーム検診、治療其ノ他傳染病豫防救治ニ當ラシムル外一般患者ノ申出ニ依リ醫務ニ當ラシム而シテ使用料金ハ醫師會ノ定ムル所ニ依ルモ其ノ住居地區民ニ對シテハ往診料ヲ徴セス

●(八) 無料巡回診療班

經營 日本赤十字社三重支部

日本赤十字社三重支部ニ於テハ夙ニ本施設ノ必要ヲ認メ大正十一年度以來春秋二季ニ於テ縣下樞要ノ地ニ開催シ來レリ大正十四年度分春季ニ於テ津市外八ヶ所ニ於ケル診療成績左ノ如シ尙秋季ノ分ハ目下開催中ナリ

診療人員

内全治セル者

未知ノ者

二、四五七名

一、五七三名

八八八名

職員 一班ノ職員ハ醫師一名、看護婦二名、調劑員一名ヲ以テ組織シ事務員トシテハ附近ノ町村吏員奉仕的ニ從事シ調劑員ハ開催地附近ノ藥劑師ニ囑託ス
場所 役場、寺院、公會堂等ヲ利用ス

期間 一ヶ所一週間

施療患者

豫メ診療券ヲ印刷シテ郡市役所ニ配付シ郡市役所ニ於テハ大体標準ヲ(縣稅戶數割納付一人平均額ノ二分ノ一以下ノ者)定メ之ヲ交付ス右持參者ヲ患者ト認メ診療ヲ加フ閉鎖ニ際スルモ尙全治ニ至ラサル者ニ對シテハ處方箋ヲ與ヘ或ハ治療法ヲ教ヘ又ハ施藥等ヲ爲ス

大正十四年度豫算

八、四一〇圓〇〇〇

●(二) 結核早期診斷

經營

財團法人三重縣結核豫防協會

位置

三重縣警察部衛生課内

創立

大正十年一月

職員

會長知事副會長二名理事五名書記八名評議員九十一名會員一八、一二〇名
財團法人三重縣結核豫防協會ハ大正十年一月警察部衛生課内ニ創立セラレ以來年々重ヌルコト四年會員並關係者ノ熱誠ナル努力ニ依リ豫定ノ計畫ニ隨ヒ順調ニ其ノ事業ヲ遂行シツ、アリ即チ縣下各地ニ巡回活動寫眞宣傳並ニ衛生展覽會ヲ開催シ其ノ他ポスター、印刷

物、標語ノ配付等、衛生思想及結核ニ關スル智識ノ普及啓發ニ努メ結核早期診斷所ヲ左記三十八ヶ所ニ設置シテ無料診斷ノ需ニ應シ一面結核病ノ蔓延状態ヲ窺知スルタメ毎年一齊調査ヲ施行ス尙結核豫防ノ目的ヲ貫徹スル爲四日市市ニ經費貳萬參千八百餘圓ヲ投シテ消毒所ヲ建設シ一般消毒ノ需ニ應シツ、アリ更ニ進テ縣下六市街ニ同様建設ノ計畫ニテ現ニ松阪町ニ於テ新築中ニ屬ス

大正十三年度結核早期診斷受診者ハ二〇五名ニシテ良好ナル效果ヲ收メタリ右診斷所各郡市配置表並大正十四年度豫算左ノ如シ

大正十四年度豫算

結核豫防協會

八、九九四〇〇〇

消毒所

二、一四四、六五〇

結核早期診斷所配置表

| 郡市名 | 診斷所數 | 受診者數 | 郡市名 | 診斷所數 | 受診者數 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 桑名郡 | 二 | 五 | 名賀郡 | 三 | 八 |
| 員辨郡 | 三 | 一 | 志摩郡 | 三 | 二〇 |
| 三重郡 | 二 | 九 | 北牟婁郡 | 一 | 一 |

五、養老

●(1) 三重養老院

| 郡市名 | 診斷所數 | 受診者數 | 郡市名 | 診斷所數 | 受診者數 |
|-----|------|------|-------|------|------|
| 鈴鹿郡 | 一 | 二 | 南牟婁郡 | 三 | 二 |
| 河藝郡 | 四 | 一 | 津市 | 一 | 三五 |
| 安濃郡 | 一 | 一 | 四日市市 | 一 | 二六 |
| 一志郡 | 三 | 一 | 宇治山田市 | 三 | 一五 |
| 飯南郡 | 二 | 一 | 合計 | 三八 | 二〇五 |
| 多氣郡 | 二 | 三 | 大正十一年 | 二五 | 三八七 |
| 度會郡 | 一 | 二 | 同十二年 | 三五 | 三二四 |
| 阿山郡 | 三 | 四 | | | |

職位 河藝郡一身田町三二番地
 事業 養老事業
 經營 高田本山專修寺
 職員 院長玉野玄陵外理事四名、主事二名

沿革

高田派本山專修寺本事業ノ必要ヲ認メ財團法人十萬人講ノ補助金ヲ以テ經營スルニ決シ大正十年六月一日執事加藤忍嚴之カ設立ヲ申請シ知事ノ認可ヲ受ケ光信寺ヲ改造シ之ニ充ツ

現況

大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助ス而シテ現ニ男女十六名ヲ收容シ宗教ヲ基礎トシテ何等拘束ヲ加ヘス朝夕自由ニ參詣休養等ヲ爲サシムル等精神的、肉体的慰安ニ努ム大正十四年度豫算左ノ如シ

創立以來ノ成績

收容者 男十三 女二十八 計四十一名
死亡者 男 八 女 十七 計二十五名

三重養老院大正十四年度歳入歳出豫算

| | | |
|-----|--------|-----------|
| 第一欸 | 補助金 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第二欸 | 寄附金 | 二〇〇、〇〇〇 |
| 第三欸 | 本山補助金 | 三、〇九一、〇〇〇 |
| 第四欸 | 前年度繰越金 | 二〇〇、〇〇〇 |
| 第五欸 | 雑収入 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 三、八九一、〇〇〇 |

歳出

| | | |
|-----|---------|-----------|
| 第一欸 | 事務費 | 一、〇五〇、〇〇〇 |
| 第二欸 | 給養費 | 二、四〇〇、〇〇〇 |
| 第三欸 | 院舎借入修繕費 | 二五〇、〇〇〇 |
| 第四欸 | 積立金 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第五欸 | 豫備費 | 九一、〇〇〇 |
| 合計 | | 三、八九一、〇〇〇 |

六、軍事救護

大正六年七月發布ノ軍事救護法ハ同七年一月一日ヨリ實施セラレタルモノニシテ縣ハ同六年十二月縣令ヲ以テ施行細則ヲ制定シ爾來同法ノ趣旨精神ヲ一般ニ諒解セシムヘク機會アル毎ニ之カ宣傳ニ努ムルト共ニ救護ノ徹底ニ關シテハ屢次郡市長ニ通牒シテ遺憾ナカラシメ又時々係員ヲ派遣シテ其ノ實況ヲ具ニ調査セシムル外別ニ軍人援護資金中ヨリ本年度ニ於テ金貳千七百圓ヲ愛國婦人會三重支部ニ交付シテ本法ニ該當セサル要救護者ノ救護ニ當ラシメツ、アリ

大正十四年十月末日現在軍事救護狀況及軍人援護資金ニ依ル救護狀況左表ノ如シ

軍事救護注ニ依ル救護者調(現金給與) 大正十四年十月末日現在

| 郡市 | 現役兵及應召兵ノ家族 | | 傷病兵並傷病兵ノ家族 | | 下士兵卒ノ遺族 | | 合計 |
|----|------------|--------|------------|-------|---------|-------|----|
| | 戸數 | 人員金額 | 戸數 | 人員金額 | 戸數 | 人員金額 | |
| 桑名 | 二 | 四〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 四 |
| 員辨 | 一 | 四〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 三 |
| 三重 | 二 | 四〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 四 |
| 鈴鹿 | 三 | 七〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 五 |
| 河濃 | 一 | 二〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 三 |
| 安藝 | 一 | 二〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 三 |
| 一志 | 四 | 二,一〇〇 | 二 | 二〇〇 | 二 | 二〇〇 | 八 |
| 飯沼 | 一 | 二〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 三 |
| 多氣 | 三 | 二,〇〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 五 |
| 度會 | 二 | 二,〇〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 四 |
| 阿賀 | 一 | 二,〇〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 三 |
| 名賀 | 三 | 五,〇〇〇 | 一 | 一〇〇 | 一 | 一〇〇 | 五 |
| 合計 | 二二 | 二二,四〇〇 | 一〇 | 一,〇〇〇 | 一〇 | 一,〇〇〇 | 四二 |

| 志摩 | 北牟婁 | 南牟婁 | 津 | 四日市 | 宇治山田 | 計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 九 | 三 | 一 | 三 | 三 | 三 | 七 |
| 二,七六〇 | 一,〇〇〇 | 四〇〇 | 一,八一〇 | 一,〇一〇 | 一,〇一〇 | 七,二五〇 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 七 |
| 四〇〇 | 一,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 一,〇〇〇 | 二,九五〇 |
| 三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 七 |
| 七三〇 | 二五〇 | 二五〇 | 二五〇 | 二五〇 | 二五〇 | 二,七三〇 |
| 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 七 |
| 四,九一〇 | 一,二七〇 | 一,二七〇 | 一,二七〇 | 一,二七〇 | 一,二七〇 | 二六,三八〇 |

備考 本表金額ハ總テ救護日額ヲ掲記シタルモノナリ

軍事救護法ニ依ル救護者調(醫療救護) 大正十四年十月末日現在

| 郡名 | 戸數 | 人員 | 員金 | 額 |
|----|----|----|----|-----|
| 三重 | 一 | 一 | 一 | 四〇〇 |

備考 本表金額ハ現救護者ニ對スル本年度救護額ノ平均日額ヲ掲記ス

軍人援護資金救護者調 大正十四年十月末日現在

| 郡市 | 戸數 | 人員 | 金額 |
|-----|----|----|--------|
| 桑名 | 一 | 二 | 四、五〇〇 |
| 員辨 | 三 | 八 | 一、五〇〇 |
| 三重 | 六 | 二 | 一、五〇〇 |
| 鈴鹿 | 二 | 九 | 三九、五〇〇 |
| 河藝 | 四 | 八 | 一、〇〇〇 |
| 安濃 | 一 | 五 | 一七、三〇〇 |
| 一志 | 四 | 三 | 四、〇〇〇 |
| 飯南 | 二 | 四 | 二、〇〇〇 |
| 多氣 | 四 | 一 | 八、四〇〇 |
| 度會 | 一 | 三 | 五二、五〇〇 |
| 阿賀 | 〇 | 一 | 一三、〇〇〇 |
| 名賀 | 一 | 二 | 四、五〇〇 |
| 志摩 | 四 | 二 | 一三、〇〇〇 |
| 北牟婁 | 一 | 二 | 四、五〇〇 |

| | | | |
|------|---|-----|---------|
| 南牟婁 | 一 | 四 | 七、〇〇〇 |
| 津日市 | 二 | 一 | 二、〇〇〇 |
| 四日市 | 一 | 一 | 一九八、二〇〇 |
| 宇治山田 | 一 | 一 | 一三〇 |
| 合計 | 四 | 一三〇 | 一九八、二〇〇 |

備考 本救護金額ハ月額ヲ以テ掲記ス

七、人事相談

本件ニ關シテハ大正九年四月以降四日市、宇治山田兩警察署ニ於テ規程ヲ設ケ一般人事ノ相談ニ應ジ其ノ後津、松阪、鳥羽、上野、桑名其ノ他主ナル各警察署ニ於テ同様事務ヲ取扱ヒツ、アリ尙縣下各職業紹介所ニ於テモ同様相談ニ應ジ就職希望者ニハ夫々適當懇切ニ斡旋シツ、アリ

八、職業紹介

勞務ノ需給調節並防貧、救貧的社會政策トシテ本施設ノ緊要ナルヲ認メ大正十年四月一日ヨリ縣下各市町村ニ右ノ事業ヲ開始セシメタルカ偶々同年四月八日職業紹介法公布セ

ラレタルヲ以テ職業紹介法施行細則ヲ制定シ津市、四日市市、宇治山田市職業紹介所ニ認可ヲ與ヘ宇治山田市明照淨濟會ニ許可ヲ與ヘ又一面本施設ノ普及獎勵ニ努メタル結果其ノ後桑名町、松阪町、上野町ニモ之カ設置ヲ見ルニ至リ何レモ相當成績ヲ擧ケツ、アリ

由來職業紹介所ハ各府縣知事ノ監督ニ屬セシカ大正十二年三月三十一日ヲ以テ職業紹介法、同施行令、同施行規則ニ改正ヲ加ヘラレ中央及地方職業紹介事務局設置セラレ本縣ハ大阪地方職業紹介事務局ノ管轄トナリ同事務局ノ監督ヲ受ケツ、アリシカ大正十四年四月十一日職業紹介事務局官制改正ニ伴ヒ新ニ名古屋地方職業紹介事務局設置セラレシヲ以テ同事務局ノ管轄ニ移管セラレタリ然レトモ本施設ハ縣當局トシテ等閑ニ附スヘキニアラサル重大事業ナルヲ以テ間接ニ之カ獎勵普及ヲ圖ルト共ニ既設紹介所ニ一段ノ改良進歩ヲ促シツ、アルノ狀況ナリ又少年職業紹介ノ必要ヲ認メテ職業紹介所設置ノ市町ニ少年職業紹介委員ヲ設置スルコト、ナレリ

●(イ) 桑名町職業紹介所

位置 桑名町役場内
經營 桑名町

職員 所長大河内彌兵衛外事員一名
開始年月日 大正十三年一月十一日
大正十四年度豫算 一、三三五〇〇〇

●(ロ) 四日市市職業紹介所

位置 四日市市役所内
經營 四日市市
職員 所長渡邊章六外事務員二名
開始年月日 大正十一年三月三十一日
大正十四年度豫算 一、〇六一四〇〇〇

●(ハ) 津市職業紹介所

位置 津市役所内
經營 津市
職員 所長外事務員二名(所長目下缺員)
開始年月日 大正十一年十月一日

大正十四年度豫算 一、三四九^円〇〇〇

●(二) 宇治山田市職業紹介所

位 置 宇治山田市役所内

經 營 宇治山田市

職 員 所長外事務員一名(所長目下缺員)

開始年月日 大正十一年三月三十一日

大正十四年度豫算 一、〇二五^円〇〇〇

●(ホ) 松阪町職業紹介所

位 置 松阪町役場内

經 營 松阪町

職 員 所長中瀬森太外事務員二名

開始年月日 大正十三年六月二十一日

大正十四年度豫算 七四〇^円〇〇〇

●(ハ) 上野町職業紹介所

位 置 上野町役場内

經 營 上野町

職 員 所長森藤徳藏外事務員三名

開始年月日 大正十三年四月一日

大正十四年度豫算 六六五^円〇〇〇

●(ト) 明照淨濟會職業紹介所

位 置 宇治山田市吹上町九〇番地

經 營 明照淨濟會

職 員 所長清水法隆外事務員二名

開始年月日 大正十一年三月三十一日

大正十四年度豫算 二四七^円〇〇〇

●(チ) 四日市船員職業紹介所

位 置 四日市市稻葉町

經 營 大日本海員掖濟會三重支部

職員 所長川松武治主任飯田基之亮
 開始年月日 大正十二年二月一日
 大正十四年度豫算 二、八三二円〇〇〇
 右ハ船員職業紹介法ニ基キ大日本海員掖濟會三重支部四日市海員寄宿所ニ設備ヲ施シ事務ヲ取扱ヒツ、アリ

九、宿泊救護

●(イ) 明照淨濟會

位置 宇治山田市吹上町九〇番地
 事業 宿泊、救護、職業紹介
 職員 有志會員
 沿革 會長清水法隆外理事一名事務員二名
 大正元年八月明治大帝崩御ニ際シ聖德奉酬記念トシテ清水法隆、駒田圓應、松本古月、井上又兵衛、森島誠諦氏等ノ發起ニテ創立シ清水氏ヲ代表者トシテ當初事務所ヲ宇治山田市欣淨寺ニ置キタリシカ大正二年四月二十五日

現況

現在ノ地ニ土地家屋ヲ買收シ失業者救濟ノ目的ヲ以テ宿泊救護並ニ職業紹介事業ヲ開始シ今日ニ及フ
 大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助ス而シテ大正十三年中ニ於テハ男女二百三十五名ヲ宿泊救護シ職業紹介ト共ニ組當ノ成績ヲ擧ケツ、アリ尙本會ハ教化訓育事業トシテ毎月五ノ日ニ定期講演會ヲ開キ又知名ノ講師ヲ聘シテ臨時講演會ヲ開催シ尙毎月一日、十五日ニハ修養會、慰安會ヲ開催シ毎日曜日ニハ明照日曜學校ヲ開キ其ノ他揭示傳道、文書宣傳等ヲ行ヒ専ラ本會趣旨ノ普及ニ努力シツ、アリ宿泊救護成績及大正十四年度豫算左ノ如シ

| | | | | | |
|----|--------------|---|------|---|--------|
| 男 | 二二五名 | 女 | 一〇名 | 計 | 二三五名 |
| 男 | 一、七三四名 | 女 | 一一〇名 | 計 | 一、八五四名 |
| 求人 | 男 二八九名 | 女 | 五〇名 | 計 | 三三九名 |
| 求職 | 男 四四三名 | 女 | 二二名 | 計 | 四六五名 |
| | 大正十三年中職業紹介成績 | | | | |

| | | | |
|----|----------|--------|----------|
| 就職 | 男 一五一名 | 女 三名 | 計 一五四名 |
| 求人 | 男 一、四七七名 | 女 一四一名 | 計 一、六一八名 |
| 求職 | 男 一、八八四名 | 女 六一名 | 計 一、九四五名 |
| 就職 | 男 一、〇三二名 | 女 二三名 | 計 一、〇五三名 |

創立以來ノ職業紹介成績

明照淨濟會大正十四年度歳入歳出豫算

| | | |
|-----|--------|-----------|
| 第一款 | 助成金 | 六五〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 基金利息 | 一七一、〇〇〇 |
| 第三款 | 會員釀金 | 一五〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 事業收入 | 一、〇二〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 臨時業收附 | 一五〇、〇〇〇 |
| 第六款 | 雜收 | 一三〇、〇〇〇 |
| 第七款 | 經營者支出金 | 三二四、〇〇〇 |
| 合計 | | 二、五九五、〇〇〇 |

一〇四

| | | |
|-----|--------|-----------|
| 第一款 | 事務所費 | 四〇六、〇〇〇 |
| 第二款 | 職業紹介所費 | 二七〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 宿泊所費 | 一、三〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 保護費 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 教化訓育費 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第六款 | 火災保險費 | 二九、〇〇〇 |
| 第七款 | 修繕費 | 八〇、〇〇〇 |
| 第八款 | 積立金 | 二〇〇、〇〇〇 |
| 第九款 | 借入金償還 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第十款 | 豫備費 | 一〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 二、五九五、〇〇〇 |

十、住宅供給

●(1) 住宅組合ニ關スル事項

住宅組合法實施以來設立シタル組合數十八ニシテ其ノ建設戸數百九十七戸ナリ之ニ對ス

ル貸付資金ハ參拾壹萬圓ニシテ大正十年度拾萬五千圓同十一年度九萬圓同十二年度六萬五千圓同十三年度五萬圓ヲ縣債ニ依リ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受ケ擔保ヲ徵シ前記十八組合ニ貸付セリ其ノ内譯別表(第一號表)ノ通り
 右ニ關連シタル事業トシテ大正八年度ニ於テ金貳萬六千五百圓同十二年度ニ於テ貳萬參千圓同十三年度ニ於テ八萬圓ヲ縣債ニ依リ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受ケ之ヲ別表(第二號表)經營主体ニ貸付シ事業ヲ遂行セシメツ、アリ
 右縣債ハ半年賦償還ニシテ二十年ニ完済スルモノナリ從テ貸付先ヨリノ償還モ亦之ニ依ラシム

本縣ニ於テ公布ノ關係法規左ノ如シ

(第一號表)

住宅組合ニ關スル調

(大正十四年十月現在)

| 組合名 | 資金貸付額 | 組合員數 | 建設済戸數 | 未建設戸數 |
|---------|-------------------------|------|-------|-------|
| 富田町住宅組合 | 一五、〇〇〇 <small>円</small> | 九 | 九 | 〇 |
| 赤城住宅組合 | 一〇、〇〇〇 | 三一 | 三一 | 〇 |
| 市場住宅組合 | 五、〇〇〇 | 七 | 七 | 〇 |
| 平谷住宅組合 | | | | |

| | | | | |
|-----------|---------|-----|-----|----|
| 長島住宅組合 | 一〇、〇〇〇 | 一〇 | 一〇 | 〇 |
| 尾鷲住宅組合 | 一〇、〇〇〇 | 七 | 七 | 〇 |
| 津住宅組合 | 二〇、〇〇〇 | 一〇 | 一〇 | 〇 |
| 四日市住宅組合 | 五五、〇〇〇 | 二五 | 二五 | 〇 |
| 富田町第二住宅組合 | 一五、〇〇〇 | 二 | 二 | 〇 |
| 羽津住宅組合 | 二一、〇〇〇 | 四 | 四 | 〇 |
| 西岸江住宅組合 | 一〇、〇〇〇 | 六 | 六 | 〇 |
| 引本住宅組合 | 三〇、〇〇〇 | 九 | 九 | 〇 |
| 末永住宅組合 | 二〇、〇〇〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 松江村住宅組合 | 一一、〇〇〇 | 二 | 二 | 〇 |
| 伊勢新聞社住宅組合 | 一一、五〇〇 | 七 | 七 | 〇 |
| 下部田住宅組合 | 二五、五〇〇 | 二 | 八 | 四 |
| 津均一住宅組合 | 一八、〇〇〇 | 九 | 〇 | 〇 |
| 四日市第二住宅組合 | 一九、〇〇〇 | 二 | 〇 | 〇 |
| 上野町住宅組合 | 三、〇〇〇 | 三〇 | 〇 | 〇 |
| 計 | 三二〇、〇〇〇 | 二六一 | 一九七 | 六四 |

(第二號表)

社會事業施設ニ對スル資金貸付額調 (小住宅其他)

| 經營主体 | 貸付金額 | 建設戸數 | 備考 |
|-----------------|--------------------|------|----------------------------------|
| 桑名郡深谷村第四區住宅改良組合 | 四、五〇〇 _円 | 九 | 地方改善事業トシテノ施設ナリ |
| 安濃郡雲林院村大正住宅改良組合 | 四、〇〇〇 | 一三 | 同上 |
| 北牟婁郡 錦産業組合 | 一八、〇〇〇 | 三〇 | 錦産業組合利用部事業トシテノ施設ナリ |
| 河蕪郡 河曲産業組合 | 二〇、〇〇〇 | 二〇 | 河曲産業組合利用部事業トシテノ施設ナリ |
| 阿山郡 上野町 | 三、〇〇〇 | 一 | 地方改善事業(共同浴場)費資金轉貸ノ爲ナリ |
| 飯南郡 松阪町 | 八〇、〇〇〇 | 一〇〇 | 地區整理ニ伴フ事業トシテ小住宅ヲ建設立退者ノ住宅ニ充ツルモノナリ |
| 計 | 一二九、五〇〇 | 一七三 | |

三重縣令第六十六號
住宅組合法施行細則左ノ通り定ム

大正十年十二月二十七日 (大正十四年四月縣令第二十九號一部改正)

三重縣知事 山 脇 春 樹

住宅組合法施行細則

- 第一條 住宅組合ノ設立許可申請書ニハ定款及事業方法書ノ外組合員ニ關スル調書ヲ添付スヘシ合併ニ依リ設立スル場合亦同シ
- 第二條 住宅組合ノ定款中一人ノ出資口數三十口以上ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル場合ハ特ニ其ノ理由書ヲ添付スヘシ
- 第三條 住宅組合設立ノ許可アリタルトキハ組合長ハ遲滞ナク各口ニ付第一回ノ拂込ヲ爲スヘキ旨ヲ各組合員ニ通知スルコトヲ要ス
設立ノ許可アリタル日ヨリ一月ヲ超ユルモ仍前項ノ拂込ヲ爲サルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ調査シ之ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第四條 前條ノ拂込ヲ爲シタルトキハ組合ハ遲滞ナク財産目錄及貸借對照表ヲ調製スヘシ
- 第五條 組合總會召集ノ通知ヲ發シタルトキハ遲滞ナク其ノ會議ノ目的日時及場所ヲ知事ニ報告スヘシ但シ組合員ヨリ總會召集ノ請求アリタルトキハ其ノ理由書ヲ添付スヘシ

前項ノ會議ヲ終リタルトキハ二週間以内ニ決議録ノ謄本ヲ添ヘ知事ニ報告スヘシ

第六條 住宅組合ニ於テ借入金ヲ爲サムトスルトキハ左記事項ヲ具シ速ニ知事ニ報告スヘシ

- 一、借入金額
- 二、借入先
- 三、利率
- 四、借入未済金額
- 五、借入年月日

第七條 住宅組合ニ於テ借入金ヲ償還シタルトキハ其ノ都度遲滞ナク左記事項ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一、償還元利金額
- 二、償還先
- 三、償還年月日
- 四、借入年月日
- 五、償還未済金額

第八條 住宅組合ハ左記事項ニ付テハ遲滞ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一、訴訟又ハ和解
- 二、會議規則其ノ他重要ナル規程ノ設定變更廢止

第九條 住宅組合法施行規則第十四條ノ規定ニ依リ讓渡シタル住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定シ又ハ相當ノ擔保ヲ提供セシメタルトキハ遲滞ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十條 住宅組合法第十條ノ規定ニ依リ住宅ヲ火災保險ニ附シタルトキハ遲滞ナク左記事項ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一、保險ニ附シタル建物ノ構造所在
- 二、保險契約締結ノ年月日
- 三、保險金額
- 四、保險期間
- 五、保險料及其ノ支拂方法
- 六、保險契約先

第十一條 住宅組合ニハ左ノ簿冊ヲ備付クヘシ

- 一、組合員名簿
- 二、出資拂込表
- 三、出資總額表

- 四、財産臺帳
 - 五、借地臺帳
 - 六、處務日誌
 - 七、出納日記帳
 - 八、收入計算簿
 - 九、借入金臺帳
 - 十、出資金其ノ他拂込金徴收簿
- 第十二條 理事又ハ清算人ハ住宅組合法第十六條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル民法第七十條及第八十一條ノ規定ニ依ル破産ノ宣告ヲ受ケ若ハ破産宣告ノ請求ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第十三條 住宅組合又ハ利害關係人ハ住宅組合法第十六條第二項ノ規程ニ依リ準用シタル産業組合法第七十三條ノ二又ハ第七十三條ノ三ノ規定ニ依リ清算人ノ選任又ハ解任ノ必要アルトキハ其ノ旨知事ニ具申スヘシ
- 第十四條 住宅組合法、住宅組合法施行規則及本令ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ各二通定款及事業方法書ハ各三通ヲ調製シ主タル事務所々在地ノ郡市長ヲ經由スヘシ
- 第十五條 住宅組合設立許可申請書組合員ニ關スル圖書事業方法書其ノ他ノ様式ハ別ニ

定ムル所ニ準據スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三重縣訓令甲第二十六號

住宅組合施行細則取扱手續左ノ通り定ム

郡役所、市役所、町村役場

大正十年十二月二十七日

三重縣知事 山 脇 春 樹

住宅組合法施行細則取扱手續

- 第一條 住宅組合ノ設立許可申請アリタルトキハ郡市長ハ左記事項ヲ調査シ事業計畫ノ當否ニ關シ意見ヲ具申スヘシ
- 一、理事及監事タルヘキ者ノ性行地方ニ於ケル名望並組合事業ニ對スル經歷
 - 二、區域内ニ於ケル住宅需給狀況
 - 三、組合ノ事業遂行上特ニ便宜ヲ得若ハ障害トナルヘキ事情アラハ其ノ事情
 - 四、住宅組合法施行細則第二條ニ規定シタル事項ノ當否
- 第二條 住宅組合ヨリ左ニ掲クル事項ノ認可申請アリタルトキハ郡市長ハ意見ヲ具申スヘシ但シ輕易ナル定款變更ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
- 一、定 款 變 更

二、合 併
三、解 散

合併ニ依リ設立スル組合ノ理事及監事カ合併前ニ組合ノ理事及監事ニ非サル者ナルトキハ前條第一號ノ事項ニ付意見ヲ具申スヘシ

第三條 組合ヨリ理事及監事變更ノ届出アリタルトキハ其ノ重任ニ非サルモノニ付第一條第一號ノ事項ニ付意見ヲ具申スヘシ

第四條 住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第二十四條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ郡市長ハ意見ヲ具申スヘシ

第五條 削除
第六條 郡市長ハ組合ニ對シ命令ヲ發シ若ハ助長監督ニ關スル施設ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事項ヲ報告スヘシ

第七條 住宅組合ノ區域二郡市以上ニ涉ルカ若ハ事務所々在地ト組合ノ區域トカ郡市ヲ異ニスル場合ハ主タル事務所々在地ノ郡市長之ヲ監督スヘシ但シ當該郡市長ハ必要ニ應シ關係郡市長ト協議ヲ爲スヘシ

第八條 郡市長ハ組合ノ事業經營困難ニ陥リ又ハ經營上法令若ハ定款ニ違背シ又ハ組合ノ主旨ニ反スルモノアリト認メタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ報告スヘシ

第九條 郡市長清算中ニ屬スル組合カ清算上重大ナル支障アリト認メタルトキ又ハ清算人ヲ改任スルニ非サレハ速ニ清算ヲ結了シ難キ事情アリト認メタルトキハ遲滯ナク意見ヲ具シ其ノ事由ヲ報告スヘシ

三重縣告示第七十五號
住宅組合施行細則第十五條ノ規定ニ依ル關係書類並帳簿様式左ノ通り改正ス
大正十四年四月十七日
三重縣知事 山岡 國利

住宅組合關係書並帳簿様式第一號様式
住宅組合設立許可申請書

今般住宅組合法ニ依リ何々責任何々住宅組合設立致度候ニ付御許可相成度別紙定款事業方法書組合員ニ關スル調書組合員別住宅表收支豫算書借入金償還年次及財源表相添へ此段申請候也

年 月 日
住 所
設立者又ハ總代 何 某 印

第二號様式
知 事 宛

何々責任何々住宅組合事業方法書 (小文字ハ記載例ヲ示ス)

一、事業區域

津市一區

二、存立期間

大正 年 月 日(又ハ 年間)

三、出資

イ、出資金總額 參萬圓

ロ、出資口數 三百口

ハ、出資一口ノ金額 百圓

ニ、出資拂込方法 第一回拂込ハ出資一口ニ付金五圓

第二回以後住宅供給前ハ第一回拂込金ノ十分ノ一住宅供給後ハ出資金額及之ニ對スル利子相當額ノ合算額ヨリ住宅供給前迄ニ拂込ミタル金額ヲ控除シタル殘額ヲ組合存立期間満了迄ノ月數ニ依リ均等ニ分割シタル金額

四、事業

イ、事業費總額 參萬圓

(一)住宅建設費 參萬圓

(二)用地費 ○

ロ、事業費處辨方法

金 貳萬八千圓

借入先

借入先 三重縣住宅建設資金借入

利率 年四分八厘

借入ノ時 大正十四年度

据置及償還期間 大正十四年度ハ据置キ大正十五年度ヨリ十五年箇年間ニ半年賦償還ス

償還方法 組合員ノ出資金及利子相當額ノ拂込金ヲ以テ毎年八月二十五日、二月二十五日ノ二期ニ於

テ各元利金千參百貳拾圓宛ヲ償還ス

金 貳千圓

出資金

第一回拂込出資金千五百圓、第二回以後第五回ニ至ル拂込出資金六百圓合計貳千百圓ノ中貳千圓ヲ充當ス

ハ、事業ノ施行

(一)住宅建設

建築戸數

木造瓦葺平屋五戸同二階家五戸

同上建坪數

坪二百坪

事業ノ遂行

大正十四年四月工事ニ着手シ同年九月全部竣工

(備考) 住宅ヲ購入スルモノアルトキハ住宅建築ノ例ニ準シ別項トシテ之ヲ記載スヘシ

(二)用地ノ借入

- 三、資産ハ大體ノ見積價格ニテ可ナリ
- 四、住宅供給後ノ拂込金額ハ實際計算ニ基ク豫定金額ヲ掲記スルコト
- 五、地代保険料其ノ他ノ拂込欄ノ記載事項ニ關シテハ大體其ノ要領ヲ備考ニ説明スルコト

第四號様式

組合員別住宅表

| 組合員 氏名 | 出資 金額 | 住宅 | | 同 | | 同上 | | | | | |
|-----------|----------|-----------|----|-----------|------------|-----------|----|---------|---|---|---|
| | | 種類及 構造 | 坪數 | 家屋 建築費 | 同上坪 當價格 | 附屬 設備費 | 坪數 | 購 價格 | | | |
| 合計 | 円 | | 坪 | 円 | | 坪 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |

備考

- 一、住宅ノ種類及構造欄ニハ和洋式ノ別並平家二階家ノ區別ヲ記入スルコト
- 二、附屬設備ニ付テハ備考ニ大要ヲ説明シ特殊ナルモノアルキハ明細ニ記述スル
- 三、用地ノ月賦金額ニハ組合員カ用地取得ノ爲毎月拂込ムヘキ金額ヲ記入スルコト

第五號様式

借入金償還年次及財源表

| 償還年 度 | 償還 元金 | 利子 額 | 計 | 同 | | 同上 | | 何 々 | 計 | 差 引 |
|----------|----------|---------|---|------------|---------|---------|---------|--------|---|--------|
| | | | | 前年度 繰越金 | 拂出 金 | 拂込 金 | 利子 金 | | | |
| 合計 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |

備考

- 一、地代保険料ノ如ク償還財源トナラサルモノハ記載ヲ要セス
- 一、借入先ヲ異ニスル毎ニ調製ヲ要ス

第六號様式

大正 年度何々責任何々住宅組合收支豫算書

收入

| | |
|----------|--|
| 二、雜費 | |
| 三、事業費 | |
| 一、建築費 | |
| 二、用地諸費 | |
| 三、雜費 | |
| 四、管理費 | |
| 一、火災保險料 | |
| 二、用地賃借料 | |
| 五、借入金償還金 | |
| 一、元金償還金 | |
| 二、利子支拂金 | |

| | |
|-------|--|
| 六、豫備費 | |
| 一、豫備費 | |
| 合計 | |

備考

- 一、收入支出ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要アルトキハ其ノ性質ニ從ヒ之カ區分ヲ爲スヘシ而シテ經常臨時ノ二部ニハ各計ヲ設ケ更ニ收入支出ノ合計ヲ掲記スヘシ
- 二、附記欄ニハ豫算ノ計算ノ基ク所ヲ明カナラシムヘシ
- 三、本例ノ外組合ノ實狀ニ應シ欸項ヲ増減スルモノトス

第七號様式

決算書

收支決算書ハ豫算書様式ニ準シ調製シ「前年度豫算高」ノ欄ヲ「本年度決算高」ニ改メ附記欄ニハ豫算ニ對スル増減ノ事由並流用ノ顛末ヲ簡明ニ記入スヘシ

第八號様式

組合員名簿

紙表簿帳

何々責任何々組合
組合員名簿

表紙ヲ除キ何枚
理事
監事

面裏ノ紙表

| | | | | | | | | | | | |
|-------|---------|----|---|---|--------|-----|-----|----|----|----|----|
| 加入年月日 | 出資一口ノ金額 | 職業 | 住 | 所 | 氏名生年月日 | 年月日 | 摘要 | 取得 | 讓渡 | 減少 | 現在 |
| | | | | | | 年月 | 日脱退 | 番號 | 口數 | 番號 | 口數 |
| 出資拂込 | | | | | | | | | | | |

第九號様式

出資拂込表

| | | | | | | | |
|-------|----|------|----|-------|----|------|----|
| 拂込年月日 | 回数 | 拂込金額 | 累計 | 拂込年月日 | 回数 | 拂込金額 | 累計 |
| | | 円 | 円 | | | 円 | 円 |

第十號様式

出資總額表

備考 毎年度末計及各年度ノ累計ヲナスコト

| | | | | |
|-----|----|----|----|---|
| 年月日 | 事由 | 拂込 | 拂戻 | 計 |
| | | 円 | 円 | 円 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 何 | 々 | | |
| 合 | 計 | 合 | 計 |

三重縣告示第三百七十九號
住宅建設資金貸付規程左ノ通り之ヲ定ム

大正十四年八月二十五日

三重縣知事 山岡國利

住宅建設資金貸付規程

- 第一條 住宅建設ニ要スル資金ハ毎年度政府ヨリ融通ノ範圍内ニ於テ本規程ノ定ムル所ニ依リ市町村、住宅組合又ハ産業組合ニ貸付ス
- 第二條 貸付金ハ住宅ヲ建築シ又ハ住宅ヲ購入スル資ニ充ツル外之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第三條 貸付金ノ利率ハ政府ノ融通資金ノ利率ニ依ル
貸付ノ際ニ於ケル一期ニ充タサル日數ニ對スル利子ハ現金交付ノ日ヨリ支拂期限マテノ日割ヲ以テ算定ス
償還ノ際ニ於テ一期ニ充タサル日數アリタル場合ハ拂込當日マテノ日割ヲ以テ算定ス

第四條 貸付金ノ償還年限ハ二十年内トス

貸付金ハ前項期限内ニ於テ貸付ノ年度ニ限据置クコトヲ得但シ利子ノ償還ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 貸付金ノ償還ハ半年賦トシ元金及利子ヲ併セ毎年度八月末日及二月末日ノ兩度ニ毎期同一ノ金額ヲ償還スルモノトス但シ繰上償還ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 前條ノ償還期限マテニ償還ヲ爲ササルモノアルトキハ償還元金壹百圓ニ付一日金參錢ノ割合ヲ以テ延滞利子ヲ徴收ス

第七條 組合ハ擔保ヲ提供シタル後ニ非サレハ貸付金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ス

前項擔保物件ノ消滅若ハ價格減少其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ更ニ相當擔保ノ提供ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 資金ノ貸付ヲ受ケムトスルモノハ第一號様式ニ依ル住宅建設資金借入申込書ヲ知事ニ提出スヘシ

前項借入申込書ニハ市町村ニ在リテハ其ノ起債決議書謄本、組合ニ在リテハ借入ニ關スル總會決議錄謄本、定款(住宅組合ニ限リ定款ヲ省略スルコトヲ得)財産目錄及貸借對照表ヲ添付スヘシ

第九條 資金貸付ノ決定ヲ受ケタルモノハ第二號様式ニ依ル借用證書ヲ知事ニ提出シ

資金ノ交付ヲ受クヘシ

第十條 資金ノ貸付ヲ受ケタルモノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ貸付金ノ全部又ハ

一部ヲ直ニ返還セシメ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

一、資金貸付後三月以内ニ工事ニ着手セス若ハ正當ノ理由ナクシテ工事ヲ進捗セシメサルトキ

二、貸付金ノ償還不確實ナルトキ

三、組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續困難ナリト認ムルトキ

四、本規程ヲ遵守セス又ハ義務ノ履行ヲ怠リ若ハ履行スルコト能ハサルトキ其ノ他

法令、定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルノ虞アルトキ

五、豫定計畫ヲ縮少シ若シハ中止タルトキ

六、貸付金ノ償還ヲ終ラサル以前ニ於テ組合ヲ解散スル場合又ハ解散ヲ命セラレタルトキ

第十一條 本規程ニ定メタル必要事項履行ノ爲要スル一切ノ費用ハ資金ヲ借入ルルモノノ負擔トス

第十二條 本規程ニ依リ提出スル書類ハ町村ニ在リテハ郡長組合ニ在リテハ主タル事務所々在地ノ郡市町村長ヲ經由スヘシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式)

住宅建設資金借入申込書

一金 圓也

二 使用ノ目的

三 償還財源

四 償還期限

右金額貸付相成度關係書類相添へ此段申込候也

年 月 日

住 所

組 合 名

組合長理事(市町村長)

氏

名 印

知 事 宛

(第二號様式)(用紙美濃野紙)

一、事業
二、組織
一、沿革

小住宅供給
町 營
大正十二年度ニ低利資金參萬圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受住宅
緩和ノ目的ヲ以テ住宅二十戸ヲ建設シ貸與シツ、アリ其ノ内譯左ノ如
シ

| 戸 數 | 一戸當リ | | 敷 金 |
|--------|--------|-------|------------------|
| | 室 數 | 一ヶ月家賃 | |
| 二〇 | 四 | 一九、五 | 一、二〇〇〇 三、六〇〇〇 |

(4) 白子町營住宅 (代表者白子町長)

一、事業
二、組織
一、沿革

小住宅供給
町 營
大正十二年度ニ低利資金貳萬五千圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受
住宅緩和ノ目的ヲ以テ住宅十八戸ヲ建設シ貸與シツ、アリ其ノ内譯左
ノ如シ

| 戸 數 | 一戸當リ | | 敷 金 |
|--------|--------|-------|--------|
| | 室 數 | 一ヶ月家賃 | |
| | | | |

| 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
|-------|--------|-------|-------|
| 三 | 三 | 六 | 六 |
| 六 | 五 | 三 | 三 |
| 三三 | 二三 | 一五 | 一三、五 |
| 一四〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | 五、〇〇〇 |
| 同 | 同 | 同 | 同 |

場合ニ依リ徴收スルコトア

(5) 松江村營住宅 (代表者松江村長)

一、事業
二、組織
一、沿革

小住宅供給
町 營
大正十三年度ニ低利資金貳萬圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受住宅
緩和ノ目的ヲ以テ住宅二十二戸ヲ建設シ貸與シツ、アリ其ノ内譯左ノ
如シ

| 甲 | 乙 | 戸 數 | 一戸當リ | | 敷 金 |
|---|---|--------|--------|-------|--------|
| | | | 室 數 | 一ヶ月家賃 | |
| 四 | 二 | 四 | 四 | 一、二、五 | 二、〇〇〇 |
| 四 | 一 | 三 | 三 | 一、三、五 | 三、〇〇〇 |
| 同 | 同 | 同 | 同 | 同 | 同 |

| | | | | | | |
|---|---|---|------|---------|---------|---|
| 丙 | 六 | 四 | 一四、五 | 一五、〇〇〇〇 | 一四、〇〇〇〇 | 同 |
|---|---|---|------|---------|---------|---|

(6) 松坂町管住宅 (代表者松坂町長)

- 一、事業 小住宅供給
- 一、組織 町 營
- 一、沿革

大正十四年度大藏省預金部ヨリ融通ニ係ル低利資金八萬圓ヲ三重縣ヨリ轉貸ヲ受ケ住宅百戸ヲ建設シ地區整理事業施行ニ依リ立退カサルヘカラサル者ニ供給スル計畫ノ下ニ事業施行中ナリ

十一、公設市場並簡易食堂

歐州戰亂以後物價昂騰シ中産階級以下ノ生活ヲ脅威スルコト甚シキニヨリ之ヲ緩和スルノ目的ヲ以テ大正十年四月四日市勞働民聲會ノ經營ニ係リ第一市場ヲ同市四ツ谷新町ニ第二市場ヲ同市北町ニ設置セリ賣店戸數ハ三戸ニシテ内三戸ハ市役所ヨリ無償貸付セルモノナリ本市場ニ於テハ努メテ生活必需品ヲ市價ヨリ低廉ニ供給シ之ニヨリテ一般市價ヲ調節シ相當ノ效果ヲ舉ケツ、アリ開設ノ當時ハ其ノ成績振ハサリシカ近時市場ヲ理解シ之ヲ利用スルモノ漸次増加シ大正十三年中ニ於テ九萬六千七百圓ノ賣上高ヲ示セリ簡

易食堂ハ第一市場ノ一部ニ設置シ新鮮ニシテ低廉ナル飲食物ヲ供給シ是亦相當ノ成績ヲ舉ケツ、アリ

第五 兒童保護事業

一、感化教育

●(イ) 三重縣立國兒學園

| | |
|-----|--|
| 位 置 | 河藝郡栗真村町屋 |
| 事業 | 不良少年少女感化 |
| 經營 | 三重縣 |
| 職員 | 園長富山智海外教諭一名 保姆二名 書記一名 |
| 沿革 | 明治四十一年四月法律第四十三號感化法改正ニ伴ヒ同年十月津市大字弓之町ニ設立シ翌四十二年四月現在ノ地ヲトシ新築ニ着手シ四十三年三月落成 同月此處ニ移ル |
| 現 況 | 本院ハ感化法第五條ニ該當スルモノヲ收容感化ス |

(參照) 感化法第五條

一、滿八歲以上十八滿未滿ノモノニシテ不良行爲ヲナス又ハ不良行爲ヲナスノ虞アリ且適當ニ親權ヲ行フモノナク地方長官ニ於テ入院ヲ必要ト認ムルモノ

二、滿十八歲未滿ノモノニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ヲ出願シ地方長官ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルモノ

三、裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者

而シテ大正十四年十月末日現在男三十三名、女二名、計三十五名ヲ收容シ前記第一號ニ依ルモノ十名、第二號ニ依ルモノ二十五名ナリ

教育方針ハ教育勅語及戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉體シ教育法規ノ精神ニ基キ兒童ノ身躰精神ノ健全ナル發達ヲ圖リ皇國臣民本來ノ面目ヲ發揮セシメ相互ニ自由ト眞實トノ生活ヲ尊重シ常ニ懺悔ト感謝ヨリ生ヌル奉公報恩ノ活動努力ヲナスヘキ日本國民ヲ養成セムコトヲ期ス

三重縣立國兒學園規則

明治四十一年十月縣令第一百一號

- 第一條 三重縣立國兒學園ハ感化法第一條ニ依リ之ヲ設置ス
- 第二條 三重縣立國兒學園ニ左ノ職員ヲ置キ知事之ヲ任免ス

園長
教諭

保 嫌
書 記

- 第三條 園長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ園務ヲ處理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
- 第四條 教師ハ園長ノ指揮ヲ承ケ在園者ノ感化教育ニ從事ス
- 第五條 書記ハ園長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第六條 保姆ハ園長ノ指揮ヲ承ケ教諭ヲ補助シ兼ネテ在園者ノ保護ニ從事ス
- 第七條 本園ニ囑託醫師ヲ置ク醫師ハ園長ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス
- 第八條 園長事故アルトキハ上席教諭其ノ事務ヲ代理ス
- 第九條 入園命令ハ感化法第十條ニヨリ場合ニ於テハ具申ヲ爲シタル行政廳ヲ經同法第五條第二號及第三號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ出願人ヲ經之ヲ交付ス
- 假退園命令退園命令ハ園長ヲ經之ヲ交付ス
- 第十條 園長ハ入園又ハ復園命令ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ引取ノ手續ヲ了シ之ヲ本人住所地市町村長ニ通知スヘシ但シ必要ト認ムル場合ハ警察官吏ノ護送ヲ求ムル事ヲ得
- 第十一條 園長ハ假退園又ハ復園ヲ要スルト認メタルトキハ知事ニ具申スヘシ
- 第十二條 假退園命令書ヲ交付セラレタルトキハ園長ハ其ノ命令書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ感

化法第五條第二號ニ依ルモノハ市町村長ニ第一號第三號ニ依ルモノハ所轄警察署及市町村長ニ通知スヘシ

第十三條 假退園者ノ保護者ハ毎月一回以上其ノ狀況ヲ園長ニ報告スヘシ

第十四條 退園命令書ヲ交付セラレタルトキハ第十二條ノ例ニ依リ之ヲ通知スヘシ

第十五條 入園者復園者及退園者假退園者ノ引取ニ要スル費用ハ扶養義務者ノ負擔トス但シ事情已ムヲ得サルモノハ此ノ限ニアラス

第十六條 在園者ニハ獨立自營ニ必要ナル教育ヲ施シ實業ヲ練習セシメ女子ニハ家事裁縫ヲ修習セシム

第十七條 在園者ニシテ作業ニ就ク者ニハ勤勞金ヲ給與スルコトヲ得

第十八條 在園者ノ衣食療養其他必要ナル費用ハ扶養義務者ノ負擔トス但シ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘキ事由アリト認めタル場合ハ此ノ限ニアラス

第十九條 囑託醫ハ毎月一回以上在園者ノ健康診斷ヲ行フヘシ

第二十條 園長ニ於テ必要ト認めタルトキハ左ノ處分爲スコトヲ得
一、一日三時間以上睡眠ヲ爲サシメ若ハ特別ノ勞務ニ服セシムルコト
二、五日以内晝夜一室ニ獨愼セシムルコト

第二十一條 園長ハ帳簿ヲ備ヘ檢束及懲戒ヲ加ヘタル事由其ノ程度並處分後ニ於ケル行

狀其ノ他必要ナル事項ヲ登記スヘシ

第二十二條 在園者ノ費用徵收ノ方法並ニ會計ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 處務細則其他園内ノ規定ハ知事ノ認可ヲ經テ園長之ヲ定ム

附則 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
縣立國兒學園大正十四年度歳出豫算

| | | |
|--------|----|-----------|
| 園長 | 年俸 | 一、三二〇、〇〇〇 |
| 教諭 | 月給 | 六六〇、〇〇〇 |
| 書記 | 月給 | 六〇〇、〇〇〇 |
| 保母 | 月給 | 七二〇、〇〇〇 |
| 農夫兼炊事人 | 月給 | 三六〇、〇〇〇 |
| 醫師 | 手當 | 六〇、〇〇〇 |
| 旅費 | | 四二〇、〇〇〇 |
| 勉勵賞與 | | 九三、〇〇〇 |
| 引取費 | | 二〇、〇〇〇 |
| 備品費 | | 二九六、七〇〇 |
| 消耗品費 | | 九八六、三八〇 |

| 被服費 | 食費 | 通信費 | 印刷費 | 肥料費 | 種子費 | 雜費 | 營業費 | 合計 | |
|-----------|----------------------|---------|--------|--------|--------|---------|---------|-----------|--|
| 三五〇、〇〇〇 | 二、五七三、二五〇 | 二六七、〇〇〇 | 三〇、〇〇〇 | 三〇、〇〇〇 | 一〇、〇〇〇 | 一八一、〇〇〇 | 四一四、三八〇 | 九、三九一、三三〇 | |
| 一五四 | | | | | | | | | |
| 創立以來入園生 | 一二七名 | | | | | | | | |
| 退園生 | 九二名 | | | | | | | | |
| 在園生 | 三五名 (內徒弟トシテ委託セルモノ八名) | | | | | | | | |
| ●□● 三重感化院 | | | | | | | | | |
| 位置 | 四日市々濱田八百六十八番地 | | | | | | | | |
| 事業 | 不良少年少女感化 | | | | | | | | |

現況

財團法人
院長山岡作藏外保母一名、事務員一名
明治三十年九月創立シ爾來刻苦經營四十二年現地ニ院舎ヲ新築シ事業ノ進行ト共ニ收容兒童ノ將來ヲ慮リ年長兒童ニ活版業ヲ授ケ逐年良好ノ成績ヲ收メ大正六年五月其ノ組織ヲ財團法人ニ改メタリ
大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲五百圓ヲ補助ス而シテ收容兒童ノ教育ハ院內ニ於テ授クルモノト市内ノ小學校ニ通學セシムルモノトアリ收容兒童ハ現在十二名ニシテ前記活版業外ノ外薪ノ販賣及農業ヲ授ク大正十四年度ノ收支豫算竝創立以來ノ成績左ノ通り

財團法人三重感化院大正十四年度歳入歳出豫算

| | | |
|-----|-------|-----------|
| 第一款 | 補助費 | 一、六五〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 寄附金 | 二、二七五、〇〇〇 |
| 第三款 | 雜收入 | 八二〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 工場收益 | 一、一九〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 前年度繰越 | 五、〇〇〇 |

| | | |
|-----|---------|-----------|
| 第六款 | 義債 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | 義債 | 六、九四〇、〇〇〇 |
| 第一款 | 在院人費 | 一、五四〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 院費 | 二、六五〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 負債償却 | 六〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 基本財産造成費 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 敷地購入費 | 一、一五〇、〇〇〇 |
| 第六款 | 豫備費 | 五〇、〇〇〇 |
| 第七款 | 義債償還 | 三五〇、〇〇〇 |
| 第八款 | 積立金 | 五〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | 積立金 | 六、九四〇、〇〇〇 |

一五六

創立以來ノ成績表

| 種別 | 改悛者 | 放院者 | 逃亡者 | 死亡者 | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男 | 七四 | 三 | 二四 | 一 | 一〇二 |
| 女 | 八一 | 四 | 二四 | 一 | 一一〇 |
| 計 | 一五五 | 七 | 四八 | 二 | 二一二 |

二、保育及育兒

●(1) 津市保育園

津市相生町
幼兒保育

津市

園長滋野捨四郎保母三名囑託一名

大正十三年四月津市ノ設立ニ係リ三歳以上學齡未滿ノ幼兒ヲ收容シ該兒童ヲ通シテ生活改善、社會改良ヲナスヲ目的トシ現在ノ地ニ園舎ヲ新築ス
現在男三十五名女四十四名計七十九名ヲ收容シ簡易ナル遊戲、唱歌、手工等ヲ授ケ午前八時ヨリ日没迄保育シ優良ナル成績ヲ示シツ、アリ

尙附帶事業トシテ園内ニ「トラホーム」治療所ヲ設ケ一般附近住民ノ診療ニ應シ尙母姉會、活動寫真會、音樂會等ヲ開キ趣味ノ向上ト家庭ノ聯絡ヲ圖リ尙兒童ノ間食費ヲ節シ兒童貯金ヲ獎勵シ本年四月以降既ニ總額四百圓ニ達セリ而シテ大正十四年度支出豫算並創立以來ノ收容者左ノ如シ

津市保育園大正十四年度歳出豫算

位 置 津市相生町
業 務 幼兒保育
經 營 津市
職 員 園長滋野捨四郎保母三名囑託一名
沿 革 大正十三年四月津市ノ設立ニ係リ三歳以上學齡未滿ノ幼兒ヲ收容シ該兒童ヲ通シテ生活改善、社會改良ヲナスヲ目的トシ現在ノ地ニ園舎ヲ新築ス
現 況 現在男三十五名女四十四名計七十九名ヲ收容シ簡易ナル遊戲、唱歌、手工等ヲ授ケ午前八時ヨリ日没迄保育シ優良ナル成績ヲ示シツ、アリ

| | | |
|----|-------|-----------|
| 一 | 職員給料 | 一、四二〇、〇〇〇 |
| 二 | 旅費 | 二〇、〇〇〇 |
| 三 | 小使給料 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 四 | 備品費 | 二〇、〇〇〇 |
| 五 | 賞與 | 一一五、〇〇〇 |
| 六 | 備品費 | 一二六、〇〇〇 |
| 七 | 消耗品費 | 二五二、〇〇〇 |
| 八 | 電燈費 | 三〇、〇〇〇 |
| 九 | 間食費 | 二二〇、〇〇〇 |
| 十 | 通信運搬費 | 五、〇〇〇 |
| 十一 | 雜費 | 一九〇、〇〇〇 |
| 十二 | 修繕費 | 五〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 二、七四八、〇〇〇 |

●(口) 三重保育院

位 置
事 業
經 營
職 員
沿 革

津市津興字米ノ内二、一二一番地
 幼児保育
 財団法人
 院長玉置諦聽外主事一名、保母四名
 大正三年九月、玉置諦聽、小林源六、外數名ノ有志ニ依リテ現在ノ地ニ設立セラレタルモノニシテ幼児ニ拘束セラレテ勞働ニ従事スルコト能ハサル人ノ爲晝間幼児ノ保育ヲナシ安シテ生業ニ就カシム、大正七年三月其ノ組織ヲ改メテ財団法人トナス

現 況

大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助ス而シテ現在男二十五人、女三十人計五十五人ヲ收容シ生後百日以上滿六歳迄ノ兒童ヲ午前六時ヨリ日没迄保育ス、保育料一日五錢ヲ徴シ晝食ヲ與ヘ乳兒ニハ牛乳ヲ與フ、今回御成婚記念トシテ院舎ノ擴張ヲ行ヒ事業ノ發展ヲ期シツ、アリ大正十四年度收支豫算並ニ創立以來ノ收容者左ノ如シ

第一欸 補助金 歳入

一、〇〇〇、〇〇〇

| | | |
|----------|--------|-----------|
| 第二款 | 財產收入 | 一、一五二、八〇〇 |
| 第三款 | 寄附金 | 一、九〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 保育料 | 四六〇、五〇〇 |
| 第五款 | 會員出資金 | 五五五、六〇〇 |
| 第六款 | 雜收入 | 二〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 五、〇八八、九〇〇 |
| 第一款 | 歲出 | |
| 第一款 | 事務所費 | 二、二〇一、〇〇〇 |
| 第二款 | 給養費 | 七〇二、九〇〇 |
| 第三款 | 臨時費 | 二、一八五、〇〇〇 |
| 合計 | | 五、〇八八、九〇〇 |
| 創立以來ノ收容者 | 男 四一八名 | |
| | 女 三七二名 | |
| | 計 八五三名 | |

●(八) 四日市佛教保育院

位置 四日市々南町二、七〇一番地
事業 幼兒保育

經營職員沿革

有志會員
院長後藤亮穩外主事一名、書記二名、保姆三名助手二名
大正五年十月乳兒及幼兒ヲ預リ晝間保育ヲ爲ス目的ヲ以テ四日市々各宗有志僧侶相謀リテ創立シ爾後現院長後藤亮穩之ヲ引繼經營シ大正十年五月同市濱町ニ分院ヲ設置ス
大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲五百圓ヲ補助ス而シテ現ニ男三十二人女二十六人、計五十八人ヲ收容ス大正十四年度歲入歲出豫算並ニ創立以來ノ收容者左ノ如シ

四日市佛教保育院大正十四年歲入歲出豫算

| | | |
|-----|------|-----------|
| 第一款 | 會員歲入 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 托鉢收入 | 二五〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 寄附金 | 一、八〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 事業收入 | 四三〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 助成金 | 一、五〇〇、〇〇〇 |
| 第六款 | 基金收入 | 一六九、〇〇〇 |

| | | | |
|-----|----|---|-----------|
| 第七款 | 雜收 | 入 | 一〇三、五九〇 |
| 第八款 | 繰越 | 金 | 一八二、四一〇 |
| 合計 | | | 四、七三五、〇〇〇 |

| | | | |
|-----|-------|---|-----------|
| 第一款 | 事務所費 | 出 | 二、二五二、〇〇〇 |
| 第二款 | 給養費 | 費 | 一、五六五、〇〇〇 |
| 第三款 | 院舍費 | 費 | 三一八、〇〇〇 |
| 第四款 | 基金積立金 | | 五〇〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 豫備費 | | 一〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | | | 四、七三五、〇〇〇 |

創立以來ノ收容者 男 三四六名 女 三三二名 計 六七八名

●(二) 白鳳愛兒園

置位 阿山郡上野町丸之内二十三番地
 事業 幼兒保育
 業 有志會員

職員 理事堤正真、佐々木普門、靜永瑞貞外幹事一名、保母三名

沿革 大正七年八月乳兒及幼兒ヲ預リ晝間保育ノ目的ヲ以テ上野町各宗僧侶並ニ有志相謀リテ同町惠美須町一、五九一番地ニ創立シ上野保育院ト稱シタルモ最近ニ至リ名稱ヲ前記ノ通り改稱セリ、然ルニ位置一隅ニ偏シ設備完全ナラサルヲ以テ御成婚記念トシテ現在ノ地ニ園舎ヲ新築シ大正十三年三月移轉ヲ了シ優良ナル成績ヲ擧ケツ、アリ

現況 大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲五百圓ヲ補助ス、而シテ現在男五十一名女四十三名計九十四名ヲ收容ス大正十四年度ノ豫算並創立以來收容者

左ノ如シ

白鳳愛兒園大正十四年度歳入歳出豫算

| | | |
|-----|-----|-----------|
| 第一款 | 歳入 | 一、八四五、〇〇〇 |
| 第二款 | 雜收 | 四三〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 助成 | 一、四〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 繰越 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 借入金 | 一八〇、〇〇〇 |

| | |
|----------|----------------------|
| 計 | 三、八六五、〇〇〇 |
| 第一款 雜給 | 一、三八〇、〇〇〇 |
| 第二款 保護費 | 七二五、〇〇〇 |
| 第三款 需用費 | 五五五、〇〇〇 |
| 第四款 納付金 | 一〇、〇〇〇 |
| 第五款 積立金 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第六款 臨時費 | 八九五、〇〇〇 |
| 合計 | 三、八六五、〇〇〇 |
| 創立以來ノ收容者 | 男 二六三名 女 二一五名 計 三七八名 |

●(木) 宇治山田市佛教團保育園

職位 宇治山田市宮後町字越坂養草寺境内
 業務 幼兒保育
 職員 宇治山田市佛教團 團長鬼頭誠音、外書記一名、保姆二名、助手一名

沿革 現況

大正十一年十一月一日晝間幼兒保育ノ目的ヲ以テ宇治山田市佛教團員相謀
 リテ創立シ主トシテ托鉢收入ニヨリテ經營ス院舎ハ現ニ養草寺ノ藥師堂ヲ
 使用セルカ將來適當ナル土地ヲ選定シ新築ノ計畫ヲ有ス
 大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金貳百圓ヲ補助ス現在男六人女十三
 人計十九人ヲ收容シ午前六時ヨリ日沒迄保育ヲナス而シテ大正十四年度ノ
 豫算並ニ創立以來ノ收容數左ノ如シ

宇治山田市佛教團保育園大正十四年度歳入歳出豫算

| | |
|--------|-----------|
| 一、 歳入 | 二五二、〇〇〇 |
| 二、 補助金 | 六〇〇、〇〇〇 |
| 三、 喜捨金 | 三六〇、〇〇〇 |
| 四、 寄附金 | 一〇、〇〇〇 |
| 五、 雜收 | 一七九、〇〇〇 |
| 六、 繰越金 | 一五〇、〇〇〇 |
| 合計 | 一、五五一、〇〇〇 |
| 歳出 | |

| | |
|----------|----------------------|
| 一、事務所費 | 九五、〇〇〇 |
| 二、事業費 | 一、二九五、〇〇〇 |
| 三、手当當 | 九五、〇〇〇 |
| 四、負擔金 | 一一、三〇〇 |
| 五、交際費 | 二〇、〇〇〇 |
| 六、豫備費 | 三四、七〇〇 |
| 合計 | 一、五五一、〇〇〇 |
| 創立以來ノ收容者 | 男 一二九名 女 一三六名 計 二六五名 |

●(へ) 松 阪 愛 護 園

位 置 飯南郡松阪町大字松阪本町二、二二四番地(舊善縁寺内)
 業 務 幼兒保育
 營 業 飯南郡佛教團松阪支部
 職 員 理事長高志一成外保姆二名
 沿 革 労働者ノ生業能率ヲ助長シ心身ノ發達ト純良ナル風習ヲ馴致スルヲ目的トシテ松阪支部員協議ノ上大正十三年四月認可ヲ得テ同町西町五丁目淨邦庵

現 況

内ニ設置シ同年七月現在ノ地ニ移轉セリ然レモ其ノ設備不完全ニシテ其ノ目的ヲ達成スルコト能ハザルヲ以テ新築ノ必要ヲ認メ既ニ舊家畜市場跡ヲ買收シ本年度中ニ新築ノ計畫ナリ
 大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金壹百圓ヲ補助セルカ現ニ男九名女九名計十八名ヲ收容ス大正十四年度歳入歳出豫算並ニ創立以來ノ收容者左ノ如シ

松阪愛護園大正十四年度歳入歳出豫算

| | |
|------------|-----------|
| 歳 入 | 四〇〇、〇〇〇 |
| 第一欸 支部員酬出金 | 二五二、〇〇〇 |
| 第二欸 事業 收入 | 三三四、〇〇〇 |
| 第三欸 篤志寄附金 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第四欸 助 成 金 | 二〇〇、〇〇〇 |
| 第五欸 雜 收 入 | 一、一七一、七一〇 |
| 第六欸 繰 越 金 | 二、六四七、七一〇 |
| 合 計 | 二、六四七、七一〇 |
| 歳 出 | |

| | | |
|----------|-------------|-----------|
| 第一款 | 事務所費 | 七四五、〇〇〇 |
| 第二款 | 給養費 | 六二一、〇〇〇 |
| 第三款 | 園舎費 | 一一〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 積立金 | 八〇〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 豫備費 | 三七一、七一〇 |
| 合計 | | 二、六四七、七一〇 |
| 創立以來ノ收容者 | 男 十五名 女 十一名 | 計 二十六名 |

●(ト) 桑名愛兒園

位置 桑名郡桑名町大字新町九華育兒院内
 事業 幼兒保育
 營業 桑名町方面委員
 職員 園長小河内彌兵衛外理事一二人保母二名
 沿革 桑名町ノ發展ニ伴ヒ日傭労働者次第ニ増加シタルヲ以テ其ノ子女ヲ預リ晝間保育ヲ爲シ以テ其ノ生業能率ヲ増進セシムル目的ノ下ニ同町方面委員相謀リ大正十三年十一月五日認可ヲ受ケ九華育兒院内ニ設立シ主トシテ寄附

現況

金ニヨリテ經營シツ、アルモ近ク資金ト適當ナル土地ヲ得テ新築スルノ計畫ヲ有ス
 大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金壹百五拾圓ヲ補助ス現ニ男女十三名ヲ收容シ午前六時ヨリ日没迄保育ス大正十四年度歳入歳出豫算左ノ如シ
 桑名愛兒園大正十四年度歳入歳出豫算

| | | |
|-----|------|-----------|
| 第一款 | 事業收入 | 五〇二、五〇〇 |
| 第二款 | 特志寄附 | 一、七五八、五〇〇 |
| 第三款 | 助成金 | 四〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 二、六六一、〇〇〇 |
| 第一款 | 事業歳出 | 一、〇四五、〇〇〇 |
| 第二款 | 給養費 | 一、五〇〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 園舎費 | 三六、〇〇〇 |
| 第四款 | 積立金 | 五〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 豫備費 | 三〇、〇〇〇 |

合計

二、六六一、〇〇〇

一七〇

●(子) 三重濟美學院

津市丸之内殿町二〇八七番地
孤貧兒救濟、幼兒保育

財團法人

理事長能真海外主事一名、事務員二名、保姆二名

位置 事業 經營 職員 沿革

現況

明治三十四年能教海三重育兒院ヲ寺町ニ創立シ同年奥野定之助津養育院ヲ伊豫町ニ創立シ爾來併立シ來リタルヲ大正三年四月兩院主宰者ノ諒解ノ下ニ合併統一シ名ヲ三重濟美學院ト改稱シ大正六年二月組織ヲ財團法人ニ改ム然レトモ時代ノ趨勢ハ育兒ノミヲ以テ満足スル能ハサルノ時恰モ東宮殿下御成婚ニ際セルヲ以テ記念トシテ幼兒保育ヲ計畫シ園舎ヲ新築シテ精華園ト命名シ現在男女二十有餘名ヲ收容シテ晝間保育ヲ爲ス
大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲五百圓ヲ補助ス而シテ現在男十五人女五人、計二十人ヲ收容シ學齡兒童ハ市内小學校ニ通學セシム大正十四年度豫算並ニ創立以來ノ成績左ノ如シ

財團法人三重濟美學院大正十三年度歲入歲出豫算

| | | |
|-----|------|-----------|
| 第一款 | 財產收入 | 八二一、七五〇 |
| 第二款 | 雜收入 | 二、八七〇、〇〇〇 |
| 第三款 | 助成金 | 一、一〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 會員醮金 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 臨時寄附 | 七〇〇、〇〇〇 |
| 合計 | | 七、四九一、七五〇 |
| 第一款 | 事務費 | 一、三〇五、〇〇〇 |
| 第二款 | 教養費 | 二、一四五、〇〇〇 |
| 第三款 | 修繕費 | 二〇〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 敷地費 | 五〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 精華園費 | 六六〇、〇〇〇 |
| 第六款 | 積立金 | 五〇〇、〇〇〇 |
| 第七款 | 改築費 | 二、一〇一、〇〇〇 |
| 合計 | | 七、〇二一、〇〇〇 |

一七一

第八款 豫備費

五三〇、七五〇
七、四九一、七五〇

合計
創立以來ノ成績

| 收容人員 | 孤兒 | | 計 |
|-------|-----|----|-----|
| | 貧兒 | 棄兒 | |
| 孤兒 | 三三 | 二二 | 五五 |
| 貧兒 | 七一 | 三七 | 一〇八 |
| 棄兒 | 六 | 四 | 一〇 |
| 計 | 一一〇 | 六三 | 一七三 |
| 獨立 | 二 | 一 | 二 |
| 縁族引取 | 五二 | 二八 | 八〇 |
| 篤志者引取 | 二八 | 一七 | 四五 |
| 死亡者 | 一四 | 一二 | 二六 |
| 計 | 九六 | 五七 | 一五三 |

位置 桑名郡桑名町字新町二、四四七番地
●(リ) 九華育兒院

事業 經營 職員 沿革

孤貧兒救濟財團法人

院長矢田俊正外理事二名、主事一名、保姆一名
明治三十四年五月、矢田俊正、鳥飼演廣、塚本左次郎之ヲ創立シ爾來大日本佛教慈善財團及九華慈善會ノ後援ニ依リ事業ヲ繼續シ大正元年八月組織ヲ財團法人ニ改ム然ルニ院舎漸ク腐朽シ設備亦不完全ナルヲ以テ東宮殿下御成婚記念トシテ現在ノ土地並講堂ヲ買收シ之ニ修繕ヲ加ヘ新ニ院舎ヲ建築シ大正十四年六月竣工セリ
大正十四年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助ス而シテ現在男十四名女六名計二十名ヲ收容シ學齡兒童ハ小學校ニ通學セシム大正十四年度豫算額並ニ創立以來ノ成績次ノ如シ

現況

財團法人九華育兒院大正十四年度歳入歳出豫算

| | |
|----------|---------|
| 第一款 財産收入 | 五九七、二九〇 |
| 第二款 繰越金 | 二〇、〇〇〇 |
| 第三款 雑収入 | 三五〇、五〇〇 |

| | | |
|-----|----------|-----------|
| 第四款 | 助成金 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 第五款 | 九華慈善會交付金 | 六四〇、〇〇〇 |
| 第六款 | 寄附金 | 七八七、四六〇 |
| 合計 | | 三、三九五、二五〇 |
| 第一款 | 事務費 | 一、二二〇、〇〇〇 |
| 第二款 | 給養費 | 二、一二五、二五〇 |
| 第三款 | 修繕費 | 二〇、〇〇〇 |
| 第四款 | 豫備費 | 三〇、〇〇〇 |
| 合計 | 創立以來ノ成績 | 三、三九五、二五〇 |

| | | | | | | | |
|------|----|----|---|----|---|----|---|
| 收容人員 | 貧兒 | 四〇 | 男 | 一五 | 女 | 五五 | 計 |
| | 孤兒 | 二 | | 五 | | 七 | |
| | 遺兒 | 一三 | | 一 | | 一四 | |
| 計 | | 五五 | | 二一 | | 七六 | |

| | | | | | | |
|-----|-------|----|--|----|--|----|
| 退院者 | 獨立 | 三 | | 一 | | 三 |
| | 緣族引取 | 三三 | | 三 | | 四六 |
| | 篤志者引取 | 一 | | 一 | | 二 |
| | 死亡者 | 六 | | 一 | | 七 |
| 計 | | 四二 | | 一四 | | 五六 |

●(又) 波切村立保育場

志摩郡波切小學校内
 幼兒保育並就督勵
 波切村
 村長、校長監督ノ下ニ訓導三名保母三名
 從來當地方ハ農繁期及漁獲時期ハ子守ノ爲就學兒童ヲ休學セシムルノ風習
 アル爲小學校兒童出席歩合甚低キヲ以テ之ヲ向上セシメ且幼兒ノ健全ナル
 發育ニ資セム爲御大典記念トシテ大正五年五月設立セリ
 本院ハ前記目的以外ニ勞働者福祉ノ増進ヲ兼テ幼兒保育ニ努ム故ニ日曜、
 祭日等ハ小學校ニ準スルコト勿論ニシテ學齡兒童ハ其ノ家庭ノ幼兒ヲ携ヘ

テ登校シ授業時間中之ヲ保姆ニ托シ退校ノ砌之ヲ受取リ歸宅ス保育料ハ一人一ヶ月貳拾錢ヲ徴收ス而シテ現ニ男十二名女十七名計二十九名ヲ保育シツ、アリ大正十四年度豫算ハ四三三圓ニシテ昨年度小學校改築ト共ニ本場モ現在ノ二倍ニ擴張シ其ノ内容ヲ充實セリ

三、妊産婦保護

●(イ) 宇治山田市妊産婦保護

位置 宇治山田市大字一志久保町一九四番地寺田産院内
事業 妊産婦保護
職員 宇治山田市 院長寺田縫之介

宇治山田市住民ニシテ生活困難ナル爲助産婦ヲ雇ヒ入ル、コト能ハサル者ヲ保護スル目的ヲ以テ大正十一年四月宇治山田市ハ妊産婦保護所ヲ設置シ同事務全部ヲ同氏ニ囑託スルヤ氏ハ銳意該事業ニ力ヲ致シ

大正十一年中 百十七名

大正十二年中 八十四名

大正十三年中 七十三名

合計二百七十四ノ妊産婦ノ保護ヲ爲シ良好ナル効果ヲ擧ケツ、アルノミナラス市ノ同經費中へ毎年貳百圓宛ヲ寄附シ患者ニ對シテハ懇切丁寧ニ取扱ヒ市民ノ信用ヲ博セリ
大正十四年度歳出豫算左ノ如シ

七四〇円〇〇〇

●(ロ) 越賀村産婦保養所

位置 志摩郡越賀村中央
事業 産婦保護
經營 越賀村

設置年月日 大正十二年三月三十一日

沿革 從來本村ニハ東西二ヶ所ニ頗ル粗糲ナル保養所アリテ土地ノ習慣ニヨリ産婦ハ貧富ノ別ナク産後四十日乃至六十日間此處ニ休養スルヲ例トス然ルニ近時該建物腐朽セルヲ以テ之カ改築ノ議起リ村會ノ議決ヲ經テ工費壹千九拾四圓拾錢ヲ投シ二ヶ所ヲ合併シテ中央部ニ建築セリ

設備

建坪十五坪瓦葺木造平家ニシテ六疊二室、三疊一室ヲ備ヘ「コンクリート」ノ土間ニ炊事室ヲ附設シ電燈ノ設備ヲナシ普通住宅ト異ルコトナシ

實況

産婦ニハ母或ハ姉妹等付添ヒテ炊事ヲ爲シ休養期間中ハ全ク繁雜ナル境遇ヲ脱シテ静養スルコトヲ得使用上ニ付テハ何等ノ拘束或ハ規定等ナシ故ニ一年ヲ通シ約六十人ノ使用者アリト謂フ

漁村ニ於ケル本施設ハ母体ノ健康乳兒ノ發育上最モ緊要ナリトス尙本村ニハ村營産婆アリテ本保養所ノ施設ト相俟テ妊産婦及乳兒ノ保健上著シキ効果ヲ擧ケツ、アリ

●(八) 村 營 産 婆

妊産婦ノ健康ヲ保持シ以テ乳兒ノ發育ヲ良好ナラシムル爲一志郡豊田村ニ於テハ村營産婆ヲ設置シ産前産後數回其ノ居宅ヲ訪問シ妊産婦ノ心得及手當等ヲ教フ産婆料金ハ縣稅戸數割一戸平均額以上ヲ負擔スルモノハ一回ニ付金四圓其ノ以下ノモノハ金貳圓ヲ徴收シ消毒藥、消耗品等ハ村費ヲ以テ支給セリ而シテ産婆給料ハ取扱數一回ニ付金四圓ト定ム大正十四年度支出豫算百六十五圓ナリ
多氣郡萩原村ニ於テハ土地僻陬ニシテ産婆ノ定住スル者ナキヲ以テ村費ヲ以テ別ニ年手當二百六十圓ヲ支給シ以テ永住策ヲ講シツ、アリ

其ノ他志摩郡左記町村ニ於テハ村内居住ノ産婆ヲ囑託シ妊産婦ノ保護ニ當ラシメ産婆料金ハ郡産婆組合ノ定ムル所ニ依リ産婦一人ニ付金五圓ヲ徴收ス而シテ産婆給料トシテ本年度左記ノ豫算ヲ計上セリ

左 記

| | | | |
|-----|------|-----|------|
| 答志村 | 二七六圓 | 桃取村 | 二四〇圓 |
| 菅島村 | 一八〇圓 | 坂手村 | 二四〇圓 |
| 長岡村 | 七二圓 | 安乘村 | 一八〇圓 |
| 國府村 | 二圓 | 甲賀村 | 四〇圓 |
| 志島村 | 一七〇圓 | 畔名村 | 一二〇圓 |
| 名田村 | 八四圓 | 片田村 | 二〇圓 |
| 越賀村 | 三〇圓 | 御座村 | 一八〇圓 |

四、幼 兒 保 護

●(イ) 津 市 兒 童 遊 園

位 置 津市榮町四天王寺境内

津市伊豫町阿彌陀寺境内
津市觀音境内

津市

經營沿革

都市兒童ヲシテ自由ニ遊戯セシメ以テ心身ヲ健全ナラシム爲前記ノ三箇所ニ兒童遊園ヲ設置シ「スベリ臺」「ブランコ」「金棒等ヲ設備ス而シテ四天王寺ハ大正十一年四月其ノ他ハ大正十三年三月完成セリ

現況

開始以來多數ノ兒童之ヲ利用シ嬉々トシテ終日運動ニ餘念ナシ大正十四年度豫算左ノ如シ

津市兒童遊園大正十四年度歲出豫算

- 一、兒童遊園地費 三〇〇圓
- 計 三〇〇圓

五、病兒及虛弱兒保護

●(イ) 日本赤十字社三重支部夏季兒童保養所

位置

度會郡二見浦河藝郡鼓ヶ浦

事業經營職員

身体虛弱又ハ腺病質兒童ノ體質改良並健康増進
 日本赤十字社三重支部
 主管||赤十字社三重支部主事小森安太郎
 事務員||支部職員
 教員||開設地又ハ其ノ附近ノ小學校教員ニ囑託ス
 醫員||支部山田病院在職者ヲ以テ充ツ
 看護婦||石同

沿革現況

前記ノ目的ヲ以テ小學校兒童ノ夏季休暇ヲ利用シ二見浦ハ大正六年以來鼓ヶ浦ハ大正十年以來毎年八月ニ於テ三週間繼續開設ス
 本年度二見浦保養所ハ八月三日ヨリ二見小學校ニ鼓ヶ浦保養所ハ八月四日ヨリ白子小學校ニ開設シ何レモ大凡百名宛ヲ收容ス所内ニハ兒童居室兼寢室兒童娛樂室兼雨中運動場、應接室、事務室、診察室、食堂、教室、病室、浴場、炊事場、小使室、便所等一切ノ設備ヲ爲シ適切ナル保護ノ下ニ身体的保養、精神的慰安、食養檢診治病、學科自修等日々ノ作業ヲ行フ故ニ期間短キニ拘ラス其ノ成績良好ナルヲ以テ毎年定員以上ノ申込アル盛況ヲ呈ス而シテ收容兒童ハ家庭ノ狀況ニ依リ鼓ヶ浦ハ無料トシ二見浦ハ一人拾五圓

ヲ徴收ス

本施設ハ其ノ期間短キヲ以テ固ヨリ充分ノ効果ヲ期スルコト能ハスト雖夏季休暇中放縱ニ流レ易キ缺點ヲ補ヒ集團的生活ニ依リテ社交ニ慣レシメ自治的生活ニ依リテ依賴心ヲ減シ而モ「オゾン」ニ富メル清鮮ナル空氣中ニ起居シ秀麗ナル山水ニ接シ其ノ心身ヲ養フ等ノ効果尠少ナラス本年度豫算左ノ如シ

大正十四年度豫算額 七、九六二円〇〇〇

●□ 津市教育會夏季海濱學校

位置 津市阿漕浦海岸

津市乙部浦海岸

經營 津市教育會

沿革 虛弱兒童ノ健康ヲ圖リ且休業中ヲ有意義ニ送ラシメム爲大正十一年津市佛教會主催ノ下ニ津市贊崎海岸ニ海濱學校ヲ開設セルカ翌十二三兩年度ニ於テ津市教育會ノ經營ノ下ニ乙部浦ニ之ヲ開設シ其ノ効果偉大ナリシヲ以テ

大正十四年度ハ前記ニケ所ニ開催スルコト、シ八月開校セリ

職員 乙部浦海濱學校主任蒔田知敬校長外指導者トシテ市内小學校訓導四人

生徒

阿漕浦海濱學校主任落合育成校長外指導者トシテ市内小學校訓導三人
學校醫ノ身体検査ノ結果身体虛弱ナル市内小學校尋常三、四年兒童中ヨリ選定ス本年ノ如キハ豫定人員ノ約二倍ニ達セリト云フ本年度入學セル兒童數左ノ如シ

乙部浦海濱學校 八〇名

阿漕浦海濱學校 六〇名

現況

八月三日ヨリ三週間毎日午前八時ヨリ午後四時迄開校シ毎日々課表ニヨリ体操、深呼吸、海水浴、砂浴、學科復習、音樂、寫生等ヲ課シ其ノ他時機ニヨリ學藝會、音樂會ヲ開催ス尙毎日一回ノ身体検査ヲ爲シ午食後ハ林間ニ「ハンモック」ヲ吊リ午睡ヲ採ラシメ又一回約拾五錢ヲ以テ適當ナル食事ヲ支給シ尙午後間食ヲ與フ

醫師及看護婦 市内小學校囑託醫師出張身体検査ヲ行ヒ發育ノ状態ヲ調査ス看護婦ハ市立病院ノ看護婦ニ囑託シ傷病者ノ醫療看護ニ當ラシム

本學校ハ青松白砂ノ勝地ニ在リ而モ十分ナル養護ト規律ノ下ニ集團的訓練ヲ受クルヲ以テ兒童ノ心身發達上多大ノ効果アルヲ以テ毎年繼續開催ノ計畫ヲ有ス本年度豫算左ノ如シ